



サラリーマン世帯の主婦 500 名に聞く

2010 年冬のボーナスと 家計の実態調査

~ “わが家の生活防衛策”第 21 弾 ~

2011 年 1 月



損保ジャパン・ディー・アイ・ワイ生命保険株式会社

< 目 次 >

.調査概要	1
1 . 調査の目的	2
2 . 調査の実施要領	2
3 . 回答者及び回答者世帯の基本属性	3
.調査結果	5
〔1〕この冬のボーナス	6
1 . この冬のボーナスの手取り額	6
2 . この冬のボーナスと昨年冬のボーナスとの増減比較	7
3 . ボーナスの今後の見通し	8
4 . ボーナスの主な使い道	9
5 . ボーナスの中から夫に渡した小遣いの額	13
6 . 臨時ボーナスをあげたいと思う人	14
7 . 今年の冬のボーナスを「川柳」にすると	16
〔2〕わが家の家計	18
1 . 家計についての現状認識	18
2 . 今後の家計の見通し	20
〔3〕わが家の生活防衛策	22
1 . 『夫に内緒の資産』の保有状況	22
2 . 金融資産の残高は増えたか	31
3 . “儉約生活”について	32
(1) 儉約生活をしているか	32
(2) 来年の儉約生活はどうするつもりか	33
(3) 家計節約のために取り入れたい食材	35
(4) 今年行った節約術	36
(5) ガラパゴス化したような独特の節約法	39
(6) 来年、今年よりも節約しようと考えているもの	40
4 . プチ贅沢	41
(1) この半年間にプチ贅沢をしたか	41
(2) 付録付きの雑誌の購入経験	42
(3) 付録付き雑誌についての意識	44

5 . 外食の頻度と金額について	45
(1) この半年間の夫婦もしくは家族での外食状況	45
(2) この半年間の友達との外食状況	48
[4] 主婦のデフレ予測	51
1 . 今年、家計に最も大きな影響を及ぼした出来事	51
2 . 来年のデフレ予測	52

.調査概要

1. 調査の目的

損保ジャパン・ディー・アイ・ワイ生命保険株式会社では、家計を切り盛りしている主婦がわが家の家計をどのように感じ、将来に向けてどのような展望を持っているのかを探るため、2002年3月からサラリーマンの夫を持つ主婦を対象に“わが家の生活防衛策シリーズ”と題して家計の実態調査を実施してまいりました。

21回目となる今回は、2010年冬に受給した夫のボーナスに対する主婦の反応や家計に関する意識と実態、今後の家計の見通しや生活防衛策などを明らかにすることを目的に「サラリーマン世帯の主婦500名に聞く、ボーナスと家計の実態調査」を実施しました。

2. 調査の実施要領

(1) 調査対象及びサンプル数

一般企業に勤めるサラリーマン世帯の20歳から59歳の主婦500人

<サンプル配分>

合計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳
500	125	125	125	125

(2) 調査方法

インターネット調査

(3) 調査時期

平成22年12月10日～12月14日

(4) 調査項目

- ・この冬のボーナスの手取り額、昨年と比較した増減額
- ・今後の増減見通し
- ・ボーナスの主な使い道
- ・ボーナスの中から夫に渡したお小遣いの額
- ・臨時ボーナスをあげたいと思う人
- ・今年の冬のボーナスを「川柳」にすると
- ・家計の現状と今後の家計の見通し
- ・夫に内緒の資産
- ・預貯金や運用などを合わせた金融資産
- ・家計防衛のための節約行動や儉約生活について
- ・チラシについて
- ・夫婦や家族での外食
- ・友達との外食
- ・回答者と回答者世帯の基本属性（妻の職業、世帯構成、夫の役職、世帯年収、等）

3. 回答者及び回答者世帯の基本属性

上段 :件数、下段 :割合 (単位 = %)

妻の年齢

	サンプル数	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	平均(歳)
全 体	500 100.0	10 2.0	115 23.0	52 10.4	73 14.6	68 13.6	57 11.4	102 20.4	23 4.6	39.7

妻の職業

	サンプル数	正規有職	パート	専業主婦
全 体	500 100.0	92 18.4	153 30.6	255 51.0
妻の年代	20代	125 100.0	32 25.6	24 19.2
	30代	125 100.0	22 17.6	30 24.0
	40代	125 100.0	18 14.4	42 33.6
	50代	125 100.0	20 16.0	57 45.6

世帯構成

	サンプル数	夫婦のみ	夫婦と子	3世代4世代同居	親夫婦と子夫婦自分たち夫婦と親
全 体	500 100.0	149 29.8	302 60.4	33 6.6	16 3.2
妻の年代	20代	125 100.0	62 49.6	54 43.2	6 4.8
	30代	125 100.0	29 23.2	81 64.8	9 7.2
	40代	125 100.0	29 23.2	85 68.0	7 5.6
	50代	125 100.0	29 23.2	82 65.6	11 8.8

扶養中の子ども

	サンプル数	いる	いない
全 体	500 100.0	293 58.6	207 41.4
妻の年代	20代	125 100.0	54 43.2
	30代	125 100.0	80 64.0
	40代	125 100.0	87 69.6
	50代	125 100.0	72 57.6

夫の勤務先での役職

		サンプル数	役職なし	係長・主任クラス	課長クラス	部長クラス以上
全 体		500 100.0	211 42.2	148 29.6	85 17.0	56 11.2
妻の年代	20代	125 100.0	88 70.4	32 25.6	3 2.4	2 1.6
	30代	125 100.0	63 50.4	50 40.0	9 7.2	3 2.4
	40代	125 100.0	37 29.6	31 24.8	38 30.4	19 15.2
	50代	125 100.0	23 18.4	35 28.0	35 28.0	32 25.6

夫の勤務先の業種

		サンプル数	水産・農林・鉱業	建設業	製造業	電気・ガス業	運輸・情報通信業	商業	金融・不動産・サービス業
全 体		500 100.0	4 0.8	34 6.8	193 38.6	12 2.4	80 16.0	51 10.2	126 25.2
妻の年代	20代	125 100.0	2 1.6	6 4.8	51 40.8	2 1.6	16 12.8	15 12.0	33 26.4
	30代	125 100.0	1 0.8	10 8.0	50 40.0	1 0.8	15 12.0	10 8.0	38 30.4
	40代	125 100.0	1 0.8	6 4.8	43 34.4	6 4.8	29 23.2	9 7.2	31 24.8
	50代	125 100.0	- -	12 9.6	49 39.2	3 2.4	20 16.0	17 13.6	24 19.2

住まいの形態

		サンプル数	一戸建て持ち家	一戸建て借家	分譲集合住宅	賃貸集合住宅	社宅・寮
全 体		500 100.0	207 41.4	8 1.6	124 24.8	131 26.2	30 6.0
妻の年代	20代	125 100.0	23 18.4	4 3.2	11 8.8	70 56.0	17 13.6
	30代	125 100.0	56 44.8	1 0.8	30 24.0	30 24.0	8 6.4
	40代	125 100.0	60 48.0	2 1.6	40 32.0	21 16.8	2 1.6
	50代	125 100.0	68 54.4	1 0.8	43 34.4	10 8.0	3 2.4

.調查結果

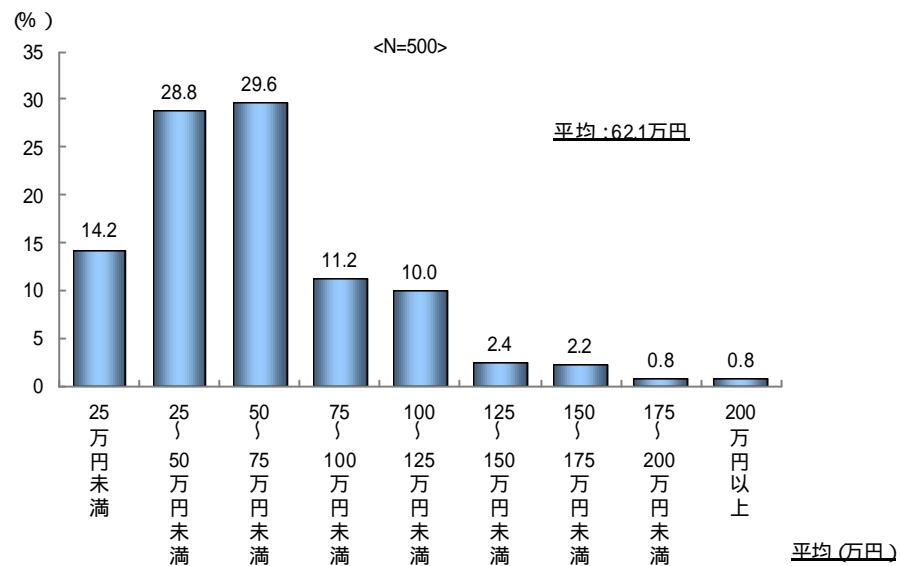
[1] この冬のボーナス

『この冬のボーナス』とは 2010 年冬に夫が受給したボーナスを指し、奥様やお子様など他のご家族が受給したボーナスは含みません。

1. この冬のボーナスの手取り額

この冬のボーナス平均受給額(手取り)は、62.1 万円。

図 1. この冬のボーナスの手取り額



妻の年代	平均(万円)								
	20 代 <n=125>	30 代 <n=125>	40 代 <n=125>	50 代 <n=125>	60 代 <n=125>	70 代 <n=125>	80 代 <n=125>	90 代 <n=125>	100 代 <n=125>
20 代 <n=125>	15.2	38.4	40.0	3.2	1.6	0.8	-	-	0.8
30 代 <n=125>	18.4	40.0	24.0	7.2	8.8	1.6	-	-	-
40 代 <n=125>	12.8	17.6	32.0	17.6	12.0	3.2	3.2	0.8	0.8
50 代 <n=125>	10.4	19.2	22.4	16.8	17.6	4.0	5.6	2.4	1.6
夫の役職	役職なし <n=211>	19.9	39.3	32.2	4.3	3.3	0.5	-	-
	係長 主任クラス <n=148>	14.2	29.1	31.8	12.2	11.5	1.4	-	-
	課長クラス以上 <n=141>	5.7	12.8	23.4	20.6	18.4	6.4	7.8	2.1

夫が受給したこの冬のボーナスは、手取り額でいくらだったのでしょうか。サラリーマン世帯の主婦 500 名に聞きました。

「50~75 万円未満」(29.6%) と「25~50 万円未満」(28.8%) が約 3 割ずつと多く、以下、「25 万円未満」(14.2%)、「75~100 万円未満」(11.2%)、「100~125 万円未満」(10.0%) などとなっています。平均金額は「62.1 万円」でした。

- 妻の年代別に受給額の平均をみると、上の年代ほど金額が高く、《20 代》(48.3 万円) と《50 代》(81.8 万円) では 33.5 万円の差が生じています。
- 夫の役職別に平均をみると、役職が上がるとともに金額は高くなり、《役職なし》(46.7 万円) と《課長クラス以上》(92.1 万円) では、その差はほぼ 2 倍となっています。

昨冬の調査結果との比較

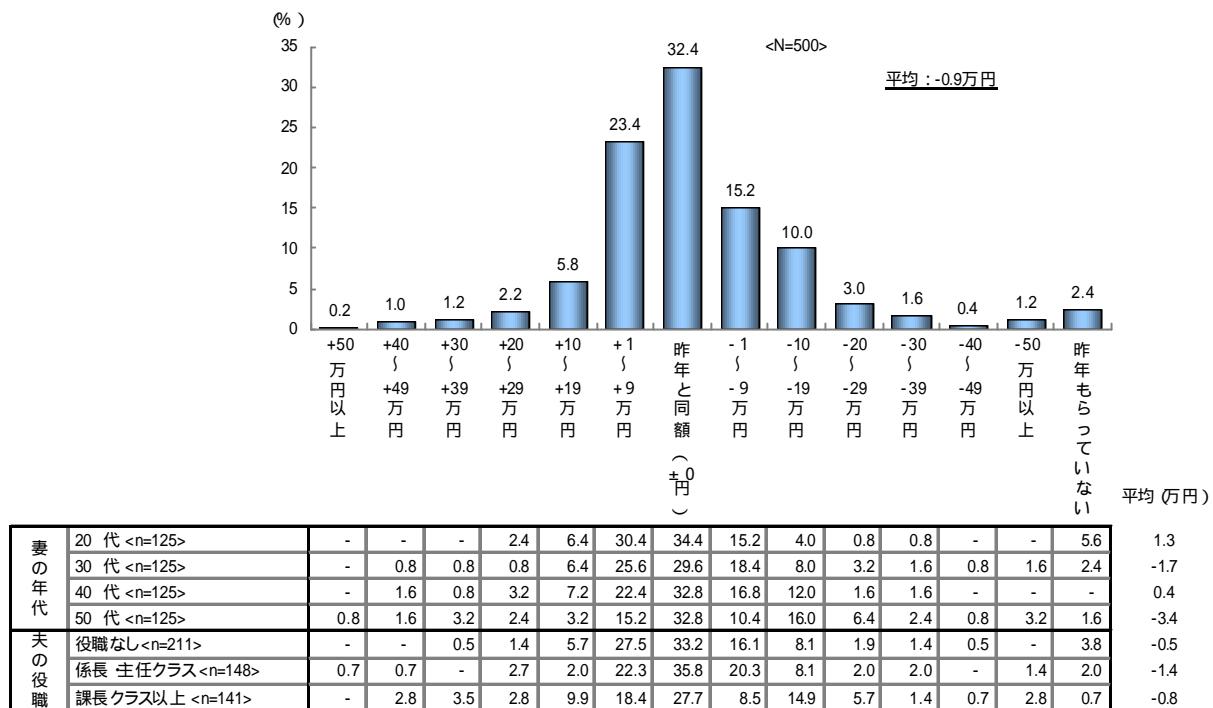
平均額は 62.1 万円で、昨冬と同額でした。

2. この冬のボーナスと昨年冬のボーナスとの増減比較

“増えた”が3割強(33.8%)を占めたものの、増減額の平均は「-0.9万円」。

“増えた”は、「+1~9万円」から「+50万円以上」の合計を表します。

図2. この冬のボーナスと、昨冬のボーナスとの増減比較



妻の年代	妻の年代別												平均(万円)		
	20代	30代	40代	50代	20代	30代	40代	50代	20代	30代	40代	50代			
20代 <n=125>	-	-	-	2.4	6.4	30.4	34.4	15.2	4.0	0.8	0.8	-	-	5.6	
30代 <n=125>	-	0.8	0.8	0.8	6.4	25.6	29.6	18.4	8.0	3.2	1.6	0.8	1.6	2.4	
40代 <n=125>	-	1.6	0.8	3.2	7.2	22.4	32.8	16.8	12.0	1.6	1.6	-	-	-	
50代 <n=125>	0.8	1.6	3.2	2.4	3.2	15.2	32.8	10.4	16.0	6.4	2.4	0.8	3.2	1.6	
夫の役職	役職なし <n=211>	-	-	0.5	1.4	5.7	27.5	33.2	16.1	8.1	1.9	1.4	0.5	-	3.8
	係長・主任クラス <n=148>	0.7	0.7	-	2.7	2.0	22.3	35.8	20.3	8.1	2.0	2.0	-	1.4	2.0
	課長クラス以上 <n=141>	-	2.8	3.5	2.8	9.9	18.4	27.7	8.5	14.9	5.7	1.4	0.7	2.8	0.7

次に、昨年の冬のボーナスに対する増減をみると、「+1~9万円」(23.4%)から「+50万円以上」(0.2%)を合計した“増えた”が33.8%で、“減った”が31.4%となっており、僅かながら“増えた”が上回ったもの増減額の平均は「-0.9万円」となっており、この冬のボーナスはほぼ横ばいといった状況です。

- 妻の年代別にみると、《50代》が-3.4万円であるのに対して、《20代》は+1.3万円であり、《50代》が最も厳しい状況となっています。
- 夫の役職別にみると、全ての役職で僅かながらマイナスとなっており、役職による差は見られませんでした。

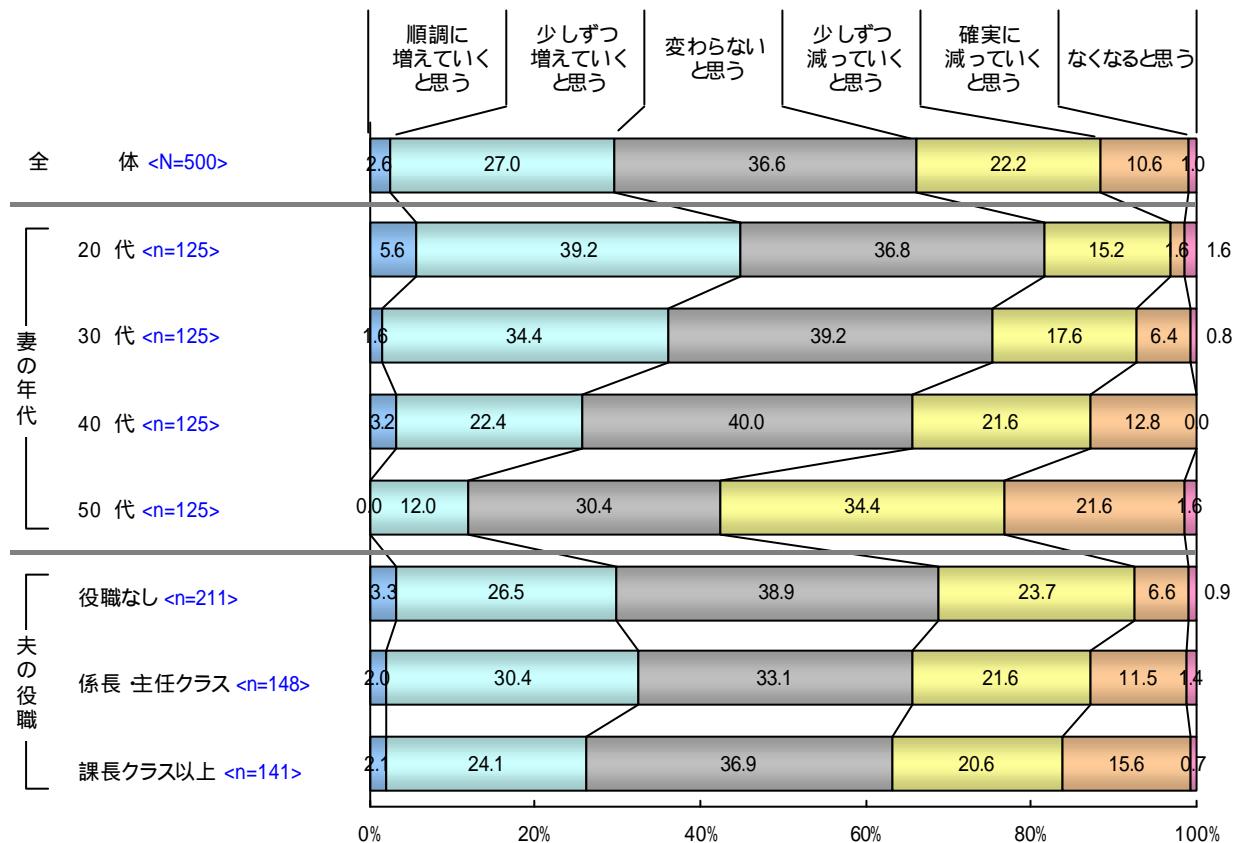
昨冬の調査結果との比較

昨冬の調査結果と比べると、“増えた”(20.4% 33.8%)“減った”(53.8% 31.4%)と大幅に回復しており、増減の平均も(-8.3万円 -0.9万円)で、昨冬の減額に比べ回復しております。しかし、平均金額で見ると僅かにマイナスであり、大きく減少した昨冬の水準にとどまりました。

3. ボーナスの今後の見通し

“減っていく+ なくなると思う”(33.8%)が、“増えていくと思う”(29.6%)を少し上回る。

図 3. ボーナスの今後の見通し



今後の夫のボーナスの見通しについて聞いたところ、“減っていくと思う”“なくなると思う”的合計は33.8%で、“増えていくと思う”(29.6%)を若干上回っています。主婦から見た将来のボーナスの見通しは悲観と楽観が拮抗しています。

- 妻の年代別にみると、“減っていくと思う”“なくなると思う”的合計は《40代》(34.4%)、《50代》(57.6%)など、40代以上から高くなる傾向が見られます。一方、“増えていくと思う”的見方は若い年代ほど多くなっています。若い年代は夫の昇級に伴ってボーナスもアップしていくはずという期待が大きいのかもしれません。
- 夫の役職別にみると、“減っていくと思う”“なくなると思う”的合計は《課長クラス以上》(36.9%)で最も高くなっています。

昨冬の調査結果との比較

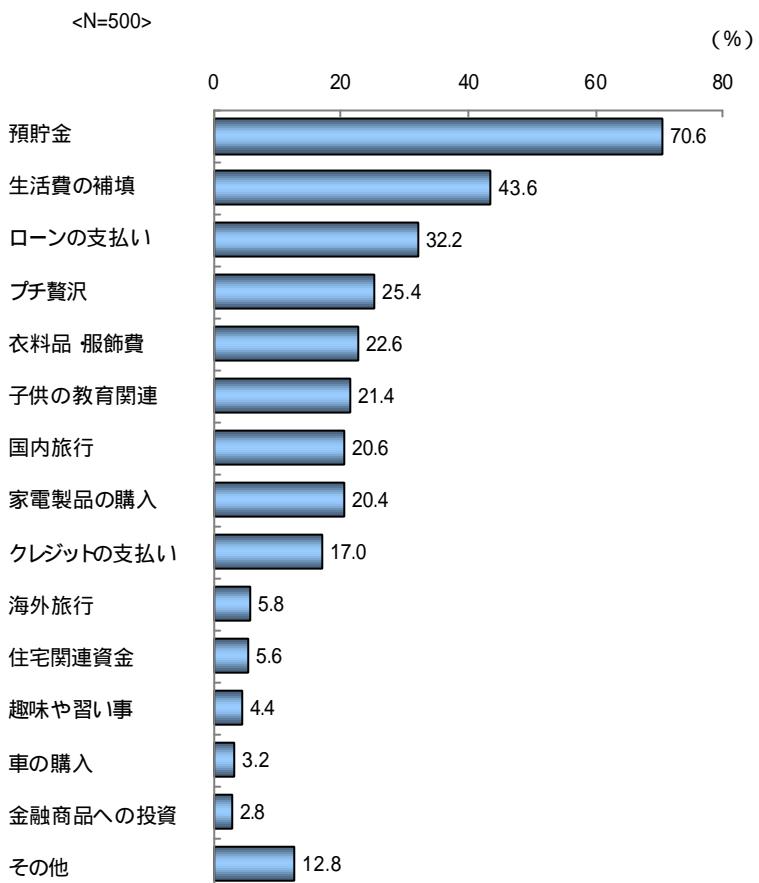
昨冬の調査結果と比べると、“増えていくと思う”(23.4% 29.6%)は増加、“減っていく+なくなると思う”(41.0% 33.8%)は減少し、前向きな見方をする主婦が増加しています。

4. ボーナスの主な使い道

「預貯金」(70.6%)がトップ。次いで「生活費の補填」(43.6%)、「ローンの支払い」(32.2%)が続く。

ボーナス総額に占める各用途の金額の割合は、「預貯金」が36.0%を占める。

図 4. この冬のボーナスの主な使い道(複数回答)



今回のボーナスの使い道についてみると、「預貯金」(70.6%)、「生活費の補填」(43.6%)、「ローンの支払い」(32.2%)がトップ3を占め、「将来への備え」「家計のやりくり」優先という状況が続いているようです。以下、「チラシ」(25.4%)、「衣料品・服飾費」(22.6%)、「子供の教育関連」(21.4%)、「国内旅行(帰省を含む)」(20.6%)、「家電製品の購入」(20.4%)などがあげられています。

表 1. この冬のボーナスの主な使い道（複数回答：属性別）

	全 体	妻の年代				扶養中の子供		住宅ローン		世帯年収				ボーナス受給額		
		20 代	30 代	40 代	50 代	い る	い ない	あ る	な い	600万円未満	600～800万円未満	800～1000万円未満	1000万円以上	50万円未満	50～100万円未満	100万円以上
サンプル数	500	125	125	125	125	293	207	225	275	208	120	76	96	215	204	81
預貯金	70.6	88.8	76.0	60.8	56.8	64.8	78.7	61.3	78.2	73.1	70.0	64.5	70.8	65.6	74.5	74.1
生活費の補填	43.6	31.2	40.0	52.0	51.2	46.8	39.1	47.1	40.7	48.6	46.7	35.5	35.4	44.2	44.6	39.5
ローンの支払い	32.2	24.0	31.2	33.6	40.0	36.2	26.6	59.6	9.8	26.9	30.8	28.9	47.9	27.9	32.8	42.0
プチ贅沢	25.4	29.6	31.2	20.8	20.0	23.5	28.0	24.0	26.5	26.0	25.8	22.4	26.0	25.1	26.0	24.7
衣料品・服飾費	22.6	21.6	28.8	22.4	17.6	22.9	22.2	22.7	22.5	24.5	20.0	26.3	18.8	23.7	21.1	23.5
子供の教育関連	21.4	7.2	17.6	39.2	21.6	31.4	7.2	24.0	19.3	14.4	24.2	28.9	27.1	15.3	22.1	35.8
国内旅行	20.6	20.8	18.4	21.6	21.6	19.5	22.2	17.8	22.9	15.9	23.3	22.4	26.0	17.2	20.1	30.9
家電製品の購入	20.4	20.0	22.4	24.0	15.2	21.2	19.3	20.0	20.7	21.2	21.7	22.4	15.6	16.3	24.0	22.2
クレジットの支払い	17.0	13.6	16.0	19.2	19.2	20.5	12.1	20.0	14.5	17.3	14.2	17.1	19.8	16.7	16.2	19.8
海外旅行	5.8	4.0	5.6	7.2	6.4	3.4	9.2	4.9	6.5	3.4	3.3	9.2	11.5	1.9	8.3	9.9
住宅関連資金	5.6	4.8	4.0	3.2	10.4	5.5	5.8	8.0	3.6	3.8	3.3	11.8	7.3	1.9	8.8	7.4
趣味や習い事	4.4	4.8	5.6	4.0	3.2	4.8	3.9	3.6	5.1	5.3	5.0	3.9	2.1	4.7	5.4	1.2
車の購入	3.2	3.2	3.2	4.8	1.6	2.7	3.9	3.1	3.3	2.4	5.8	1.3	3.1	1.9	4.4	3.7
金融商品への投資	2.8	2.4	2.4	2.4	4.0	2.0	3.9	0.9	4.4	1.0	0.8	5.3	7.3	0.9	2.9	7.4
その他	12.8	12.8	16.0	11.2	11.2	10.9	15.5	11.6	13.8	14.9	8.3	9.2	16.7	10.7	13.7	16.0

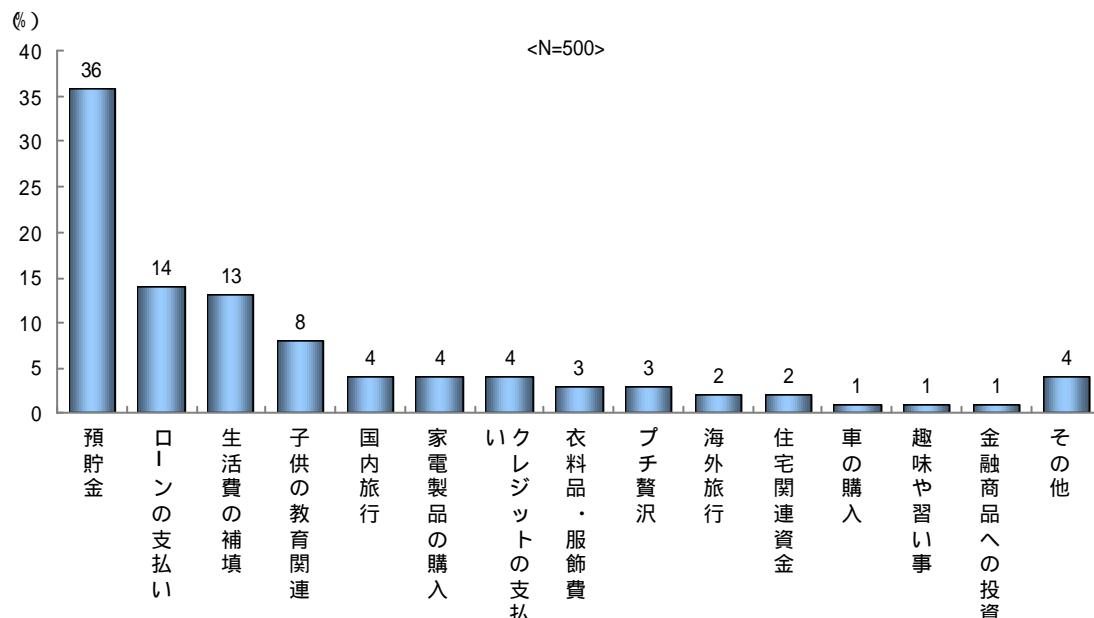
- 妻の年代別にみると、「預貯金」は《20 代》(88.8%)、《30 代》(76.0%)で特に高くなっています。一方、「生活費の補填」は《40 代》(52.0%)、《50 代》(51.2%)で高く、「プチ贅沢」は《20 代》(29.6%)、《30 代》(31.2%)で高くなっています。その他、《40 代》では「子供の教育関連」(39.2%)が高めであり、《30 代》では「衣料品・服飾費」(28.8%)が、《50 代》では「住宅関連資金」が高めであるなど、ライフステージや生活スタイルによって主な使い道は変わってくるようです。
- 独立していない子供（扶養中の子供）の有無別にみると、「預貯金」の割合は子供が《い ない》(78.7%)方が《い る》(64.8%)より高くなっています。一方、子供が《い る》世帯では「生活費の補填」(46.8%)、「ローンの支払い」(36.2%)、「子供の教育関連」(31.4%)が多くあげられ、出費の大きさがうかがえます。
- 住宅ローンの有無別にみると、ローンが《ない》層では「預貯金」(78.2%)、「プチ贅沢」(26.5%)が多いのに対し、《ある》においては「ローンの支払い」(59.6%)、「生活費の補填」(47.1%)、「クレジットの支払い」(20.0%)が高くなっています。住宅ローンは家計のゆとりに大きく影響しているようです。
- 世帯年収別にみると、「生活費の補填」は年収 800 万円未満の層では約半数となり、800 万円以上の収入がある層とで差が見られます。同様に「国内旅行（帰省を含む）」、「海外旅行」、「金融商品への投資」も年収 800 万円を境に差が見られます。

- ボーナス受給額別にみると、《50万円未満》《50～100万円未満》では「生活費の補填」(44.2%、44.6%)が《100万円以上》と比べて高く、ボーナス依存度が高い層といえそうです。一方、《100万円以上》は、「ローンの支払い」(42.0%)「子供の教育関連」(35.8%)「国内旅行」(30.9%)「金融商品への投資」(7.4%)などが多くなっており、さまざまな用途に使われているようです。

昨冬の調査結果との比較

「預貯金」(68.0% 70.6%)、「プチ贅沢」(21.2% 25.4%)が少し増え、「生活費の補填」(47.2% 43.6%)、「ローンの支払い」(33.8% 32.2%)が少し減っているなど、家計のやりくりに少し余裕がでてきた兆しが見えます。しかし、「預貯金」が7割という状況に変わりはなく、依然として家計は守りの姿勢が強い状況にあります。

図 5. ボーナスの主な使い道が総額に占める割合(平均値)

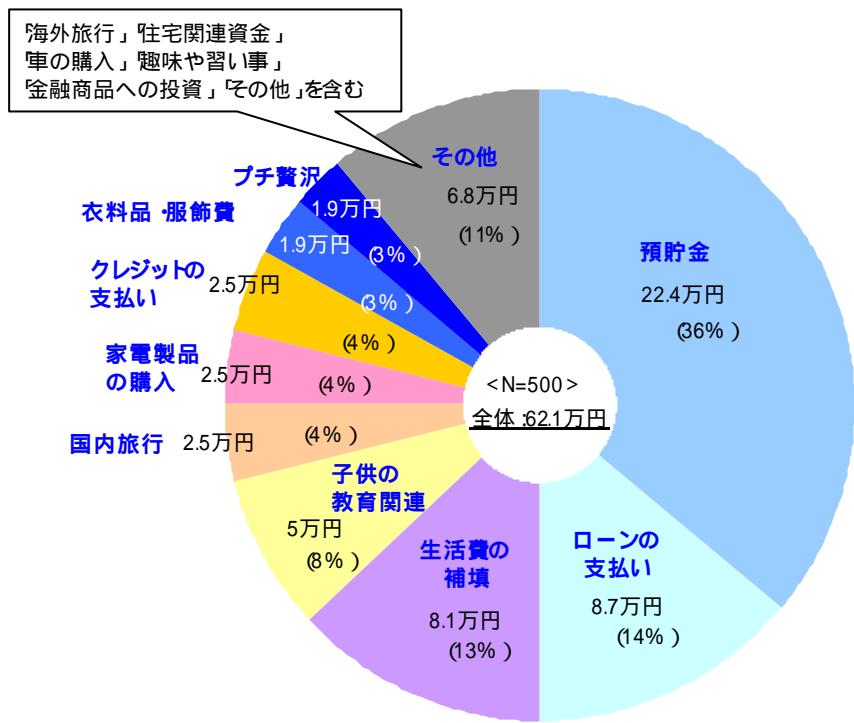


次に、冬のボーナス全額を「100%」とした場合、それぞれの使い道が何%を占めるか答えてもらいました。

平均値を見ると「預貯金」(36%)が最も高く、ボーナス総額の4割弱が預貯金に回されている計算になります。次いで「ローンの支払い」(14%)「生活費の補填」(13%)が続き、このトップ3で63%を占めています。以下、「子供の教育関連」(8%)「国内旅行」(4%)「家電製品の購入」(4%)「クレジットの支払い」(4%)「衣料品・服飾費」(3%)「プチ贅沢」(3%)などの順で、贅沢に充てる予算はごく控えめなものとなっています。

図 6 . ボーナスの主な使い道が総額に占める割合

(この冬のボーナス平均手取額 62.1 万円を総額とし、金額に換算)



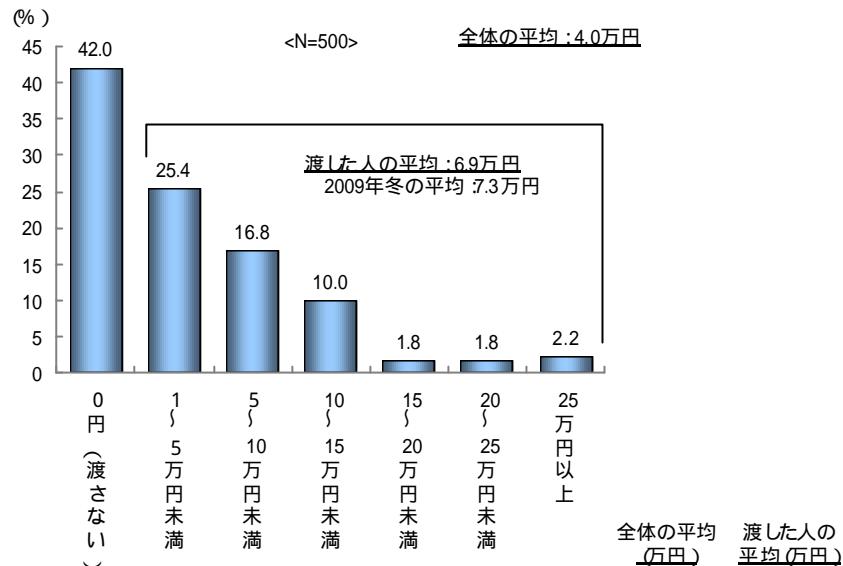
参考までに、今回の冬のボーナスの平均手取額「62.1 万円」を前ページの割合で配分した場合、それぞれの使い道がいくらになるかを表してみたところ、トップの「預貯金」は 22.4 万円、「ローンの支払い」は 8.7 万円などとなりました。

例えば「国内旅行（帰省を含む）」(2.5 万円) は実際にはもっと費用がかかることが多いはずですが、500 名の回答を平均でならすと、一家庭当たり 2.5 万円に当たることを示しています。

5. ボーナスの中から夫に渡した小遣いの額

「0円(渡さない)」が4割強(42.0%)を占める。「渡した(渡そうと思っている)」人では、「5万円未満」(25.4%)が最も多く、次いで「5~10万円未満」(16.8%)、「10~15万円未満」(10.0%)などが続き、「渡した(渡そうを持っている)」人の平均金額は「6.9万円」。

図 7. ボーナスの中から夫に渡した小遣いの額



妻の年代	20代 <n=125>	全年代別平均金額(万円)						
		20代	30代	40代	50代	60代	70代	
20代	47.2	30.4	8.8	7.2	1.6	-	4.8	
30代	38.4	32.0	21.6	4.0	3.2	-	0.8	
40代	44.8	19.2	20.8	10.4	1.6	2.4	0.8	
50代	37.6	20.0	16.0	18.4	0.8	4.8	2.4	
ボーナス受給額	50万円未満 <n=215>	44.7	40.9	9.8	1.4	1.4	-	1.9
	50~100万円未満 <n=204>	44.1	13.7	22.1	13.2	2.0	2.9	2.0
	100万円以上 <n=81>	29.6	13.6	22.2	24.7	2.5	3.7	3.7

今回のボーナスの中から、夫に小遣いとして渡した、あるいは渡そうと思っている金額を聞いたところ、4割強が「0円(渡さない)」(42.0%)としており、家計を預かる主婦の財布の紐の堅さがうかがえます。小遣いを渡した(渡そうと思っている)人では、「1~5万円未満」(25.4%)が最も多く、以下、「5~10万円未満」(16.8%)、「10~15万円未満」(10.0%)などが続いています。渡した人の平均金額は「6.9万円」となっています。

- 妻の年代別に“渡した”人の平均金額をみると、《50代》が最も多く8.5万円、次いで《20代》が7.9万円となっています。最も少ないので《30代》で4.9万円でした。なお、「0円(渡さない)」の割合は《20代》(47.2%)が最も高くなっています。
- ボーナス受給額別にみると、受給額が高いほどお小遣いの平均額も高く、《50万円未満》(4.2万円)と《100万円以上》(9.4万円)では2.2倍の差が見られます。

昨冬の調査結果との比較

昨冬の調査結果と比べると、「0円(渡さない)」(47.4% 42.0%)割合は少し減りましたが、渡した平均額は7.3万円 6.9万円で4千円のダウンとなっています。

6. 臨時ボーナスをあげたいと思う人

芸能界では「嵐」(41 件)、スポーツ界では「石川遼」(55 件)、「斎藤佑樹」(24 件)、その他の分野では、「渡部陽一」(11 件)が多い。

渡してあげたいボーナス金額(平均)は、「根岸英一 / 鈴木章(ノーベル賞の二人)」1,992 万円、「イチロー」1,007 万円、「高橋大輔」647 万円がトップ3。

2010 年に、大いに活躍した人やグループで臨時ボーナスをあげたいと思う人と渡してあげたい金額を、芸能界、スポーツ界、その他の分野に分けて自由にあげてもらいました。

表 2 . 臨時ボーナスをあげたいと思う人(芸能人)

芸能人		
順位		件数
1	嵐	41
2	福山雅治	17
3	AKB48	12
4	渡部陽一	11
5	マツコ・デラックス	8
6	向井理	6
7	岡村隆史	5

	平均金額 (万円)	最高額 (万円)
306	1000	
633	5000	
107	480	
124	500	
188	1000	
117	200	
180	500	

芸能界では「嵐」(各 41 件)が第 1 位にあげられ、第 2 位は「福山雅治」(17 件)、第 3 位は「AKB48」(12 件)があげられています。

渡してあげたいボーナス金額(平均)は、「福山雅治」が633 万円、「嵐」は306 万円で、得票数との逆転が見られます。

表 3 . 臨時ボーナスをあげたいと思う人(スポーツ界)

スポーツ界		
順位		件数
1	石川遼	55
2	斎藤佑樹	24
3	浅田真央	16
4	イチロー	14
5	高橋大輔	12
6	村上佳菜子	11
7	白鵬	7
8	女子バレー	6
9	本田圭佑	5

	平均金額 (万円)	最高額 (万円)
603	10,000	
562	10,000	
383	2,000	
1,007	10,000	
647	5,000	
162	1,000	
357	1,000	
318	1,000	
172	500	

スポーツ界では第 1 位に「石川遼」(55 件)があげられ、全体を通してトップとなっています。第 2 位には「斎藤佑樹」(24 件)、第 3 位には「浅田真央」(16 件)があげられています。以下、「イチロー」(14 件)、「高橋大輔」(12 件)、「村上佳菜子」(11 件)などとなっています。

ボーナス金額(平均)は、「イチロー」が1,007 万円と抜き出しており、以下、「高橋大輔」647 万円、「石川遼」603 万円などとなっており、こちらも得票数とは異なる結果になりました。

表4. 臨時ボーナスをあげたいと思う人（その他）

その他		
順位		件数
1	渡部陽一	11
2	自分	6
	根岸英一／鈴木章	6
4	池上彰	5

他の分野では、芸能分野でもランクインした「渡部陽一」(11件)が最も多く、次いで「自分」と「根岸英一／鈴木章(ノーベル賞の二人)」(各6件)、「池上彰」(5件)の順となっています。

ボーナス金額(平均)は、「根岸英一／鈴木章(ノーベル賞の二人)」が1,992万円で全体を通してトップとなり、第2位の「自分」は47万円と控えめな金額となっています。

表5. <参考：総合得票・ボーナス金額トップ10>

順位		得票数	順位		金額(万円)
1	石川遼	55	1	根岸英一／鈴木章	1,992
2	嵐	41	2	イチロー	1,007
3	斎藤佑樹	24	3	高橋大輔	647
4	渡部陽一	22	4	福山雅治	633
5	福山雅治	17	5	石川遼	603
6	浅田真央	16	6	斎藤佑樹	562
7	イチロー	14	7	浅田真央	383
8	AKB48	12	8	白鵬	357
	高橋大輔	12	9	池上彰	330
10	村上佳菜子	11	10	女子バレー	318

渡部陽一は「芸能人」での得票と「その他」の得票を合わせたもの

昨冬の調査結果との比較

昨冬の第1位と比べると、

【芸能界】「嵐」(46件) 「嵐」(41件)

【スポーツ界】「石川遼」(92件) 「石川遼」(55件)

【その他】「蓮舫」(9件) 「渡部陽一」(11件)

となっており、「嵐」と「石川遼」は2年連続で1位となっています。

7. 今年の冬のボーナスを「川柳」にすると

「ボーナスが 作る笑顔は 一週間」「ボーナスは 旦那のメタボと 反比例」「予期しない ボーナス額に まず貯金」「ボーナスに 期待なくなり ここ数年」「熟年の 会話をつなぐ ボーナス日」など、受給額によって主婦の思いもさまざま。

表 6 . 川柳に詠まれた主な内容

順位		件数
1	家計のやりくりの大変さ	94
2	ボーナスの額を見てガッカリした気持ち	60
3	ボーナスが出ただけマシ	21
	使い道は貯蓄が最優先	21
5	ボーナスが出たことへの感謝	18
6	ボーナスに期待していない	17
7	ボーナスの額を見て喜んだ	11
	夫への感謝の気持ち	11
9	今後のボーナスが不安	9
10	使い道は旅行や食事	5

冬のボーナスを受け取った時の気持ちを題材に、家計を預かる主婦に「川柳」を作ってもらいました。

ボーナスをもらってもすぐに家計の穴埋めに消えてしまう「家計のやりくりの大変さ」(94 件)を詠んだものが非常に多く、次いで「ボーナスの額を見てガッカリした気持ち」(60 件)を表わしたものが多くなっています。また、「ボーナスが出ただけマシ」「使い道は貯蓄」、「ボーナスが出たことに感謝」などを表現したものも多くありました。

実際に詠まれた川柳から代表例を以下にあげたいと思います。

【家計のやりくりの大変さ】

- ・ボーナスが 作る笑顔は 一週間 (40 代・有職主婦)
- ・ボーナスを 貯った気がした 昨日だけ (50 代・有職主婦)
- ・ボーナスを 出産費用に 充てる冬 (20 代・有職主婦)
- ・マイホーム ボーナス完食 まだ足りず (30 代・有職主婦)
- ・ボーナスが 減るのに増える 教育費 (40 代・専業主婦)

【ボーナスの額を見てガッカリした気持ち】

- ・ボーナスは 旦那のメタボと 反比例 (30 代・専業主婦)
- ・ボーナスか 月給よりも 少ないぞ (40 代・専業主婦)

【ボーナスが出ただけマシ】

・ボーナスが 出るだけうれし 年越しに (40代・専業主婦)

【使い道は貯蓄が最優先】

・予期しない ボーナス額に まず貯金 (20代・有職主婦)

・ボーナスは 有無を言わさず 貯金する (30代・専業主婦)

【ボーナスが出たことへの感謝】

・再雇用 もらえるだけで ありがたい (50代・専業主婦)

【ボーナスに期待していない】

・ボーナスは 今年もまったく 期待せず (20代・有職主婦)

・ボーナスに 期待なくなり ここ数年 (50代・有職主婦)

・ボーナスは あてにできない しばらくは (30代・有職主婦)

【ボーナスの額を見て喜んだ】

・ボーナス日 思わず小躍り 額上昇 (30代・有職主婦)

・ボーナスが 増えて心も ぽっかぽか (40代・専業主婦)

【夫への感謝の気持ち】

・ボーナスを もらえる旦那で よかったな (20代・専業主婦)

・期待より ちょっと多くて 感謝した (20代・専業主婦)

・ボーナス日 夫のがんばり 実を結ぶ (20代・有職主婦)

【今後のボーナスが不安】

・ボーナスが もらえなくなったら 別れよう (20代・専業主婦)

【控除が高すぎる】

・支給額 ぬかよろこびの 控除額 (40代・専業主婦)

【今後のボーナスアップへの祈り】

・ボーナスで 豪沢できる日 いつ来るか (30代・専業主婦)

【その他】

・減り続け 急に増えても 紐緩まず (20代・有職主婦)

・ボーナスで 買いたい物は 子の将来 (40代・有職主婦)

・熟年の 会話をつなぐ ボーナス日 (50代・有職主婦)

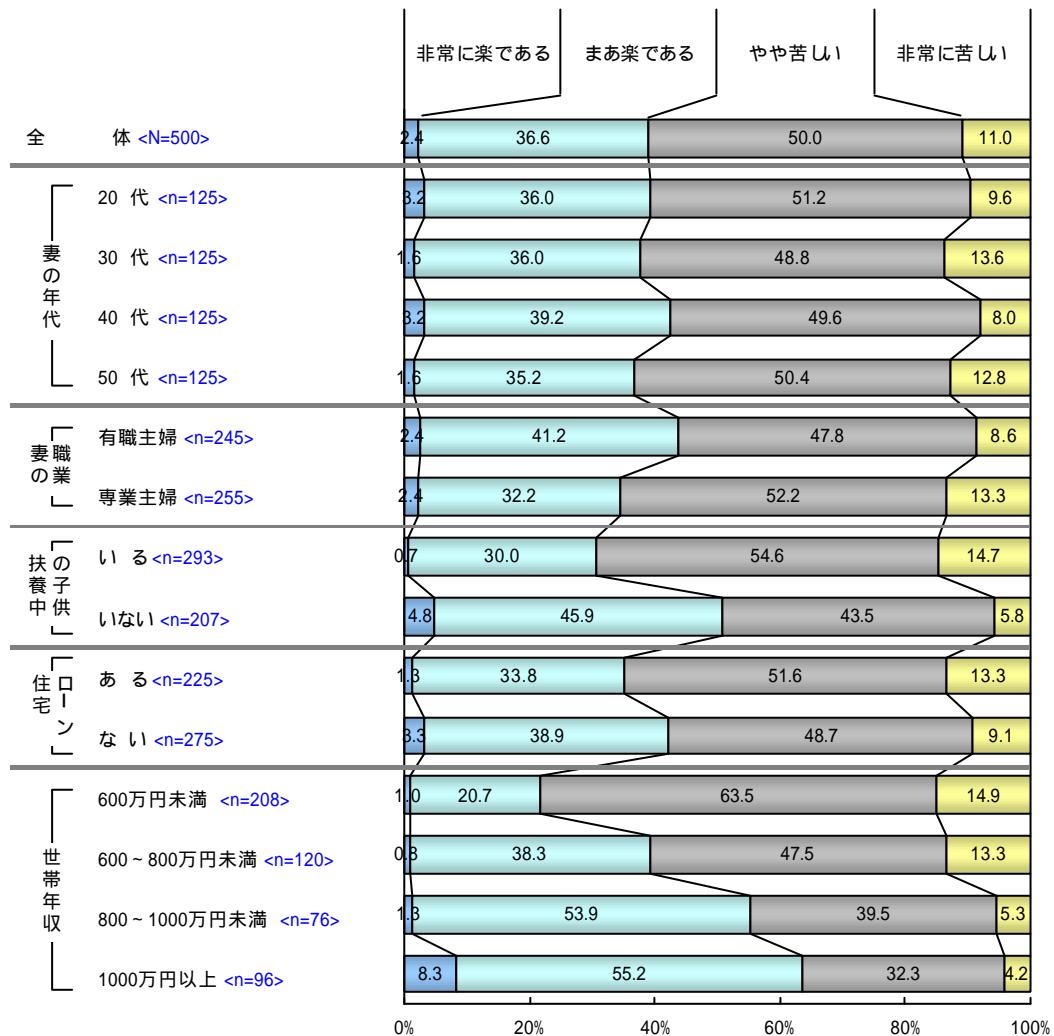
[2] わが家の家計

1. 家計についての現状認識

“苦しい”(61.0%)が、“楽である”(39.0%)を上回り、依然として“厳しい”という認識が強い。

“苦しい”は、「やや苦しい」非常に苦しいの合計、“楽である”は、「まあ楽である」非常に楽であるの合計を表します。

図 8 . 家計についての現状認識



次に、現状における家計の認識を聞いてみました。

“楽である”(39.0%)は約4割にとどまり、“苦しい”(61.0%)が上回っています。依然として家計は苦しい状況が続いているようです。

- 妻の年代別にみると、“苦しい”は《50代》(63.2%)で最も多く、《30代》(62.4%)もやや多くなっています。
- 妻の職業別にみると、“楽である”は《有職主婦》(43.7%)の方が《専業主婦》(34.5%)より約10ポイント近く高くなっています。

- 独立していない子供（扶養中の子供）の有無別にみると、《いない》層で“ 楽である ” と回答した人は半数（ 50.7% ）に達していますが、《いる》では 3 割弱（ 30.7% ）にとどまり、 20 ポイント以上の差が生じています。
- 住宅ローンの有無別にみると、“ 苦しい ” という認識は《ある》（ 64.9% ）方が《ない》（ 57.8% ）を 7 ポイントほど上回っています。
- 世帯年収別にみると、当然ながら年収が高いほど“ 楽である ” の割合が高く、《 1000 万円以上》（ 63.5% ）と《 600 万円未満》（ 21.6% ）とでは約 3 倍という大きな差が生じています。

昨冬の調査結果との比較

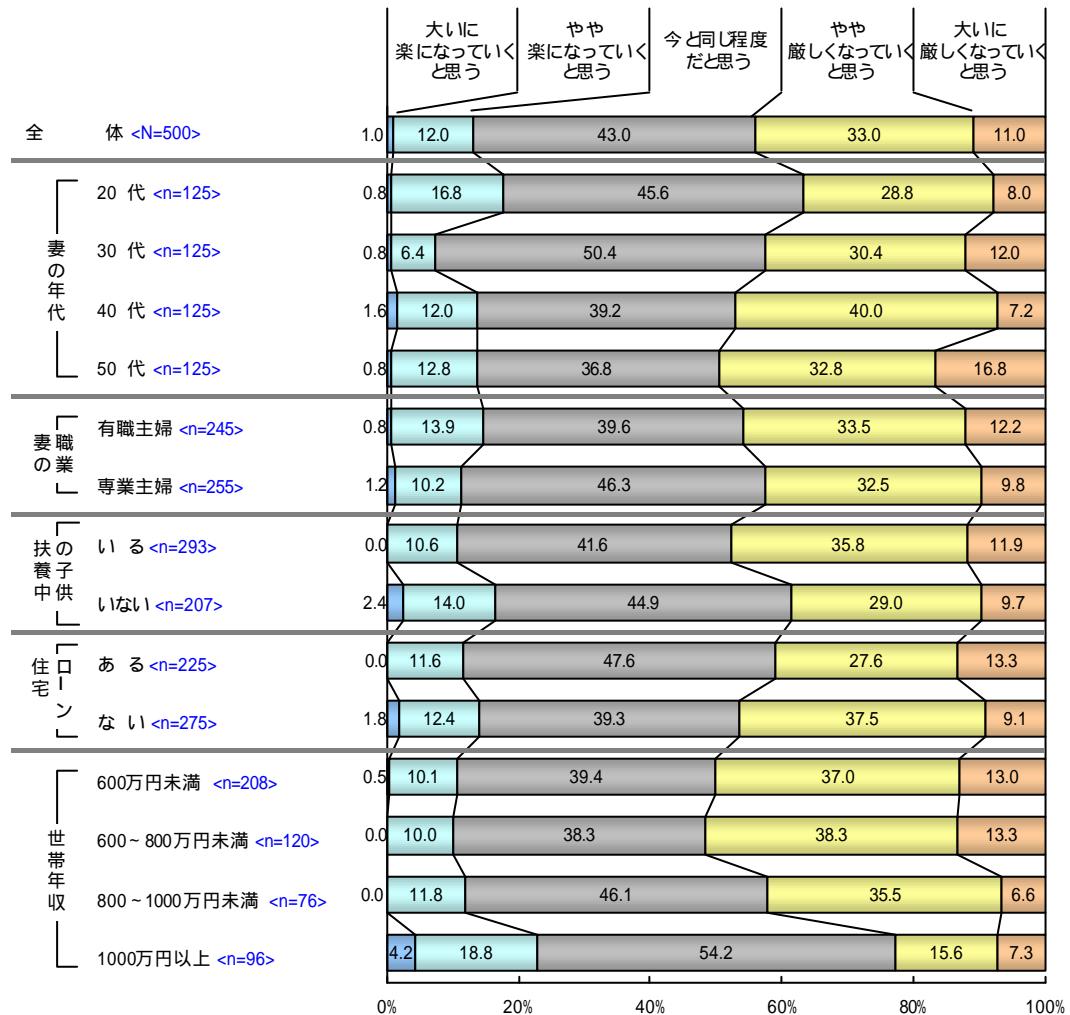
昨冬の調査結果と比べると、“ 楽である ”（ 36.8% 39.0% ）“ 苦しい ”（ 63.2% 61.0% ）と、僅かではありますが家計の苦しさが改善されたようです。

2. 今後の家計の見通し

“厳しくなっていく”が4割強(44.0%)を占め、“楽になっていく”(13.0%)は1割台にとどまる。

“厳しくなっていく”は、やや厳しくなっていくと思う「大いに厳しくなっていくと思う」の合計、“樂になっていく”は、やや樂になっていくと思う「大いに樂になっていくと思う」の合計を表します。

図 9. 今後の家計の見通し



次に今後の家計の見通しを聞いたところ、“樂になっていく”(13.0%)と前向きにとらえている人は1割程度にとどまり、“厳しくなっていくと思う”(44.0%)と、さらなる悪化を心配する見方の方が多く見られます。また、「今と同じ程度だと思う」(43.0%)という見方も4割を超えていました。

- 妻の年代別にみると、“厳しくなっていく”は年代が高くなるにしたがって増える傾向にあり、《20代》(36.8%)に比べ《50代》(49.6%)は13ポイントほど上回っており、悲観的な見方が強くなっています。
- 独立していない子供(扶養中の子供)の有無別にみると、“厳しくなっていく”が《いる》層では47.8%であるのに対して、《いない》は38.6%であり、子供がいる家庭の方が危機感が強いといえます。

- 住宅ローンの有無別にみると、“厳しくなっていく”との見方はローンが《ない》(46.5%)方が《ある》(40.9%)より少し多くなっています。
- 世帯年収別にみると、“楽になっていく”割合は《1,000万円以上》(22.9%)で最も高く、《600万円未満》(10.6%)や《600～800万円未満》(10.0%)の約2倍となっています。

昨冬の調査結果との比較

昨冬の調査結果と比べると、“楽になっていく”(11.4% 13.0%)、“厳しくなっていく”(46.0% 44.0%)であり、見通しは少し明るいようです。

[3] わが家の生活防衛策

1. 『夫に内緒の資産』の保有状況

4割以上(43.4%)が『夫に内緒の資産』を持っている。

内緒の資産を持っている人の平均額は「308.3万円」。目的は「老後の備え」(62件)、「いざという時の備え」(51件)、「自分の趣味や買い物のための資金」(27件)がトップ3。

内緒の資産を得た理由は、「結婚前に貯めていたお金」(55.8%)、「結婚後、自分が勤めて稼いだお金を貯めた」(45.6%)が多い。

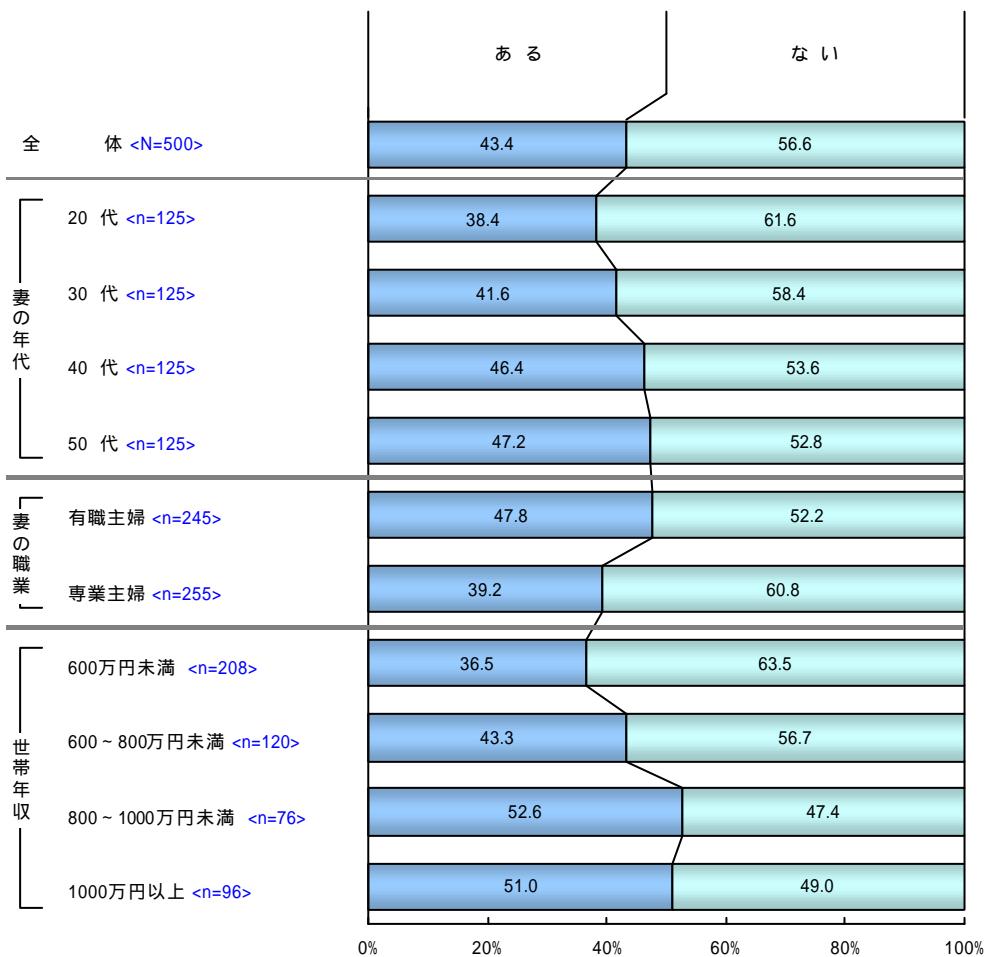
今年に入ってからの増減は、「減った」(37.3%)が「増えた」(25.8%)をやや上回る。

増えた理由は、「将来が不安なので蓄える額を増やした」(50.0%)がトップ。

減った理由は、「家計の赤字の穴うめに使った」(37.0%)がトップ。

『夫に内緒の資産』とは、へそくり、結婚前働いていたときに貯めたお金、結婚後自分が働いて貯めたお金、資産運用で得たお金、実家の財産分与など“夫に話していない奥様主義の資産”すべてを指します。“意図的に隠している”ものに限りません。

図 10. 『夫に内緒の資産』の有無



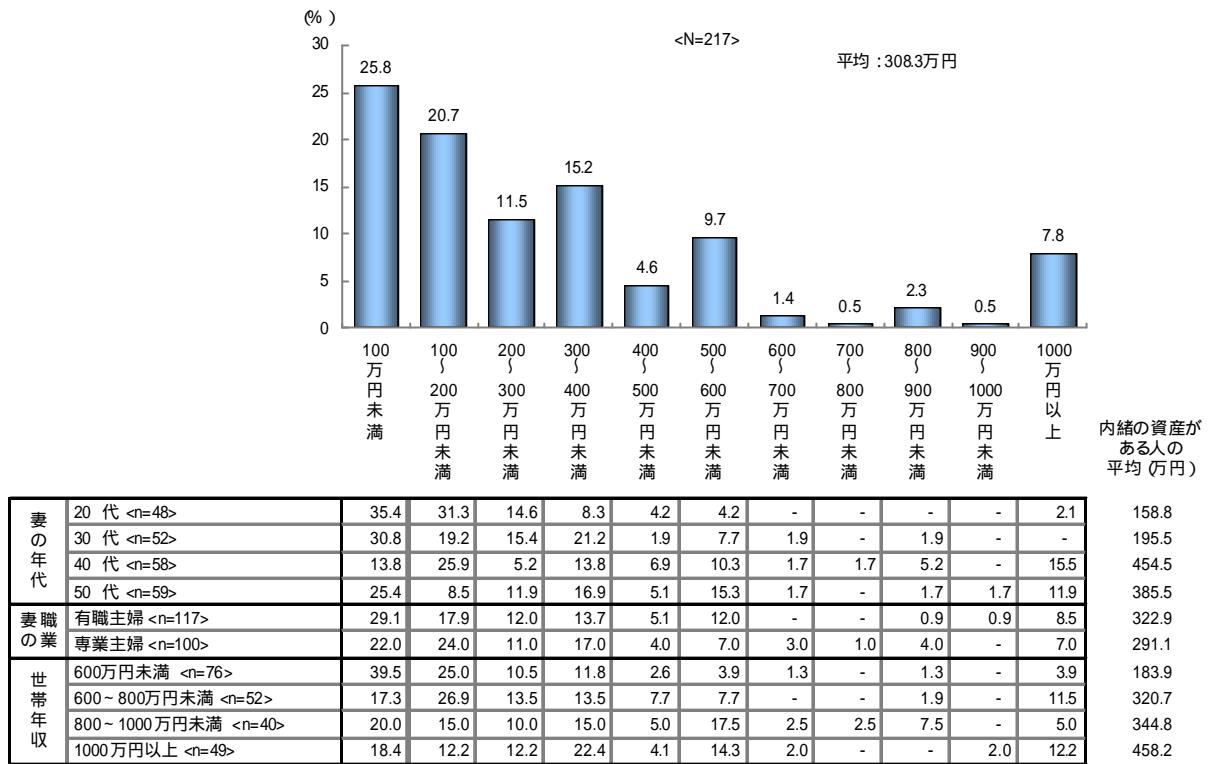
サラリーマン世帯の主婦は、『夫に内緒の資産』をどのくらいの割合の人が持っているのでしょうか。『夫に内緒の資産』があるかについて聞いたところ、「ある」(43.4%) が 4 割を超す結果となりました。

- 妻の年代別にみると、年代が高まるにつれ保有率も高くなり、《20 代》(38.4%) に比べ《50 代》(47.2%) では約 10 ポイント上回っています。
- 妻の職業別にみると、《有職主婦》(47.8%) の方が《専業主婦》(39.2%) より上回っています。
- 世帯年収別にみると、800 万円を超えると保有率が高くなり、「ある」が半数以上を占めています。

昨冬の調査結果との比較

昨冬の調査結果と比べると、保有者の割合は 46.8% 43.4% と、少し下がっています。

図 11.『夫に内緒の資産』をいくらくらい持っているか



	20代 <n=48>	30代 <n=52>	40代 <n=58>	50代 <n=59>	600万円未満 <n=76>	600~800万円未満 <n=52>	800~1000万円未満 <n=40>	1000万円以上 <n=49>	平均
妻の年代	35.4	31.3	14.6	8.3	4.2	4.2	-	-	2.1
妻の職業	30.8	19.2	15.4	21.2	1.9	7.7	1.9	-	1.9
世帯年収	13.8	25.9	5.2	13.8	6.9	10.3	1.7	1.7	5.2
	25.4	8.5	11.9	16.9	5.1	15.3	1.7	-	1.7
有職主婦 <n=117>	29.1	17.9	12.0	13.7	5.1	12.0	-	0.9	0.9
専業主婦 <n=100>	22.0	24.0	11.0	17.0	4.0	7.0	3.0	1.0	4.0
	18.4	12.2	12.2	22.4	4.1	14.3	2.0	-	2.0
	39.5	25.0	10.5	11.8	2.6	3.9	1.3	-	3.9
	17.3	26.9	13.5	13.5	7.7	7.7	-	1.9	-
	20.0	15.0	10.0	15.0	5.0	17.5	2.5	2.5	5.0
	18.4	12.2	12.2	22.4	4.1	14.3	2.0	-	12.2

次に、『夫に内緒の資産』を持っている人にその金額を聞いたところ、「100万円未満」(25.8%)が最も多く、以下、「100~200万円未満」(20.7%)、「300~400万円未満」(15.2%)、「200~300万円未満」(11.5%)などが続いています。一方、「1,000万円以上」(7.8%)という人も見られ、資産額はかなり分散しています。資産保有者の平均は308.3万円で、昨年より66万円減少しています。ちなみに、最高金額は3,500万円(1名)でした。

- 妻の年代別に資産額の平均をみると、年代とともに金額が高くなる傾向にあります。最も高いのは《40代》の454.5万円でした。
- 妻の職業別にみると、《有職主婦》(322.9万円)よりも《専業主婦》(291.1万円)の方が、平均金額は約32万円少なくなっています。
- 世帯年収別にみると、年収が高い家庭の主婦ほど明らかに資産額が高くなっています。

昨冬の調査結果との比較

昨冬の調査結果と比べると、平均所持率(46.8% 43.4%)はやや減少し、平均金額も374.3万円 308.3万円で、66万円減少しています。

表 7 .『夫に内緒の資産』を持つ目的

順位		件数
1	老後の蓄え	62
2	何かあった時の備え	51
3	趣味や買い物など、自分のために使う	27
4	子供のため（教育費、結婚資金など）	23
5	家や車の購入資金	9
	離婚時の備え	9
7	旅行の資金	8
8	家族の病気に備えて	5
9	夫が働けなくなった時のため	4

夫に内緒の資産をどのように使うために持っているのかを自由にあげてもらいました。

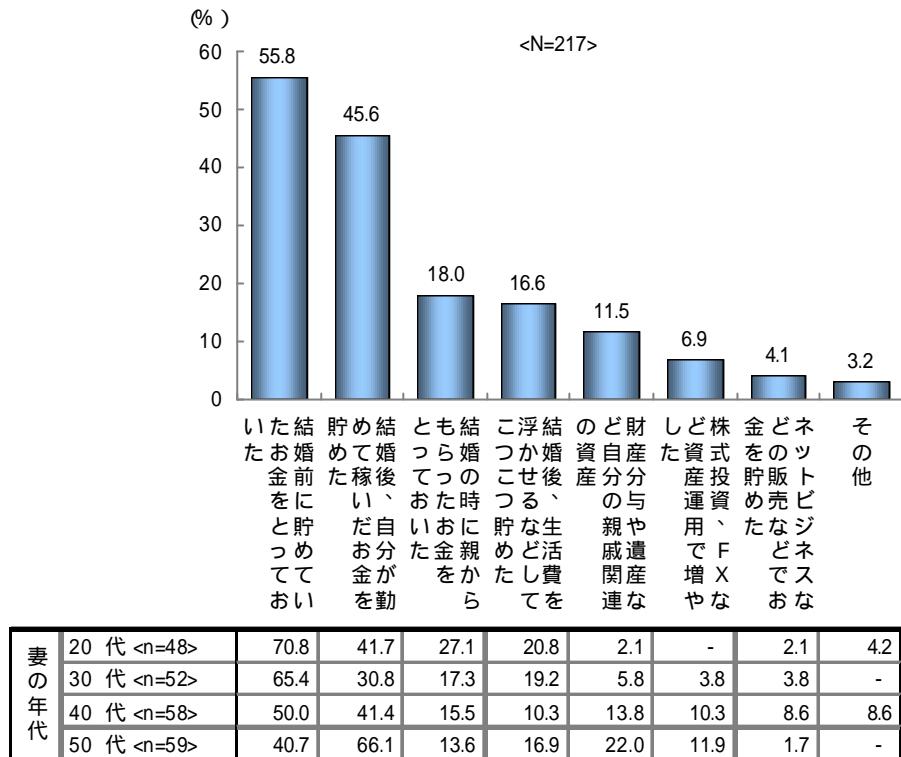
最も多かったのが「老後の備え」で 62 件でした。次いで「何かあった時の備え」(51 件) が多く、また、「家族の病気に備えて」(5 件) 「夫が働けなくなった時のため」(4 件) など、"へそくり"は万が一の時ため、あるいは老後の備えのために貯めている主婦が多いようです。

また、「子供のため（教育費、結婚資金など）」(23 件) 「家や車の購入資金」(9 件) 「旅行の資金」(8 件) として貯めている主婦も少なくありません。

一方で、「趣味や買い物など自分のために使う」も 27 件見られ、自分の生活を楽しむことをしっかり考えている主婦も結構いるようです。

「離婚時の備え」(9 件) という回答もあり、旦那さんがドキッとする理由も見られました。

図 12.『夫に内緒の資産』はどのようにして得たものか（複数回答）



『夫に内緒の資産』をどのようにして得たかについては、「結婚前に貯めていたお金をとっておいた」(55.8%)が最も多くなっています。次いで「結婚後、自分が勤めて稼いだお金を貯めた」(45.6%)、「結婚の時に親からもらったお金をとっておいた」(18.0%)、「結婚後、生活費を浮かせるなどしてこつこつ貯めた」(16.6%)などとなっており、結婚前に貯めたもの、結婚後に貯めたもの、自分の親からもらったものなどとなっています。

「株式投資、FXなど資産運用で増やした」(6.9%)、「インターネットビジネス・フリーマーケット・趣味の作品の販売などでお金を貯めた」(4.1%)など、副業や投資によるケースは1割未満と比較的少数です。

昨冬の調査結果との比較

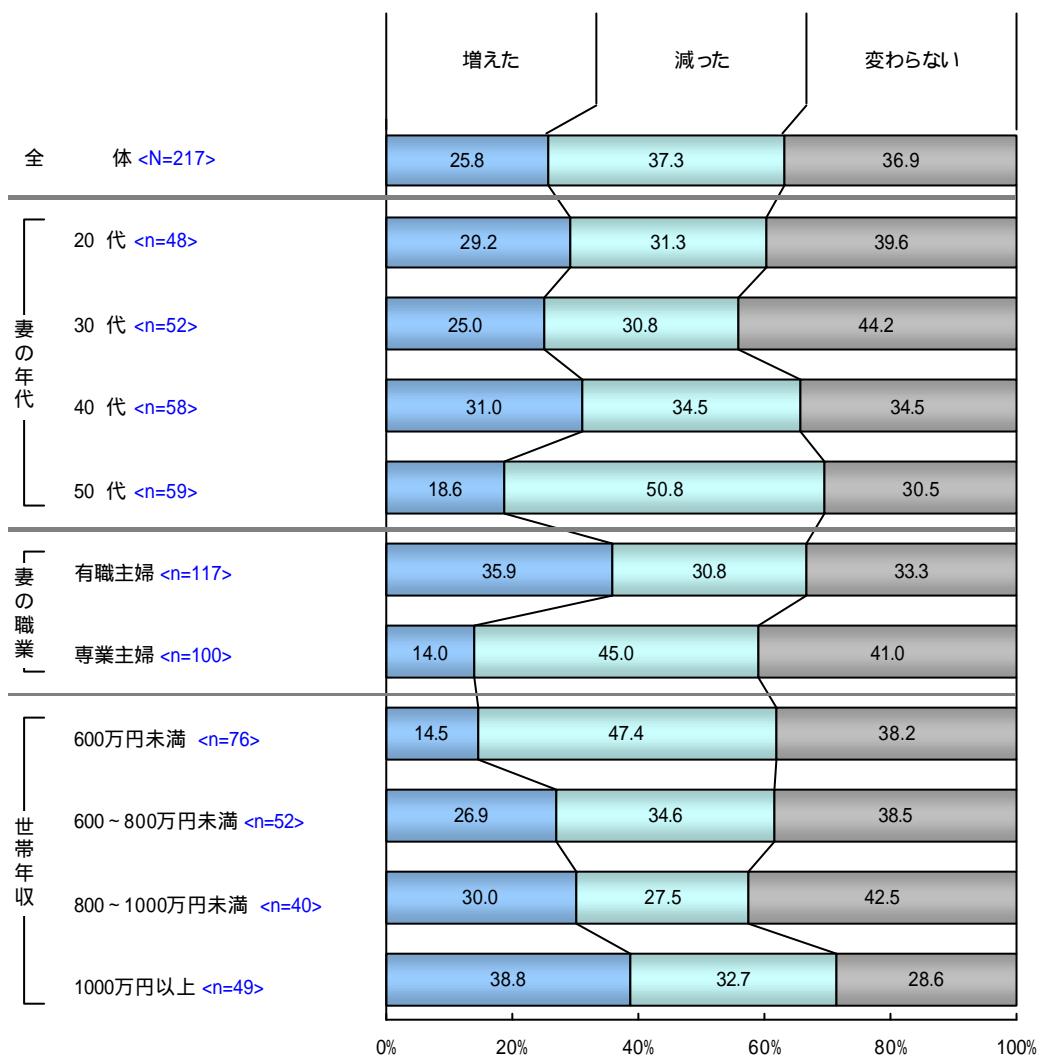
昨冬の調査結果と比べると、「結婚後、自分が勤めて稼いだお金を貯めた」(38.9% 45.6%)が増加し、「結婚後、生活費を切りつめてこつこつ貯めた」(21.8% 16.6%)が減少しています。

表8.『夫に内緒の資産』はどのようにして得たものか(複数回答)【内緒の資産額別%表】

		サンプル数	いた結婚金前をにと貯めてておい	貯め結婚後い、だ自分金が勤	とも結婚てつのおたにおいた金親をから	こ浮結つか婚こせ後つる、貯な生めど活たし費てを	のど財資自産分の与親や戚遺関産連な	しど株式投資用、でFX増やな	金どネをのツ貯販め売ビたなジ	その他の
全 体			217	55.8	45.6	18.0	16.6	11.5	6.9	4.1
夫に内緒の資産	100万円未満	56	37.5	46.4	10.7	17.9	1.8	1.8	3.6	5.4
	100～200万円未満	45	55.6	40.0	22.2	20.0	4.4	8.9	6.7	4.4
	200～300万円未満	25	64.0	36.0	20.0	12.0	-	-	4.0	-
	300～500万円未満	43	69.8	48.8	18.6	20.9	23.3	4.7	7.0	2.3
	500～1000万円未満	31	54.8	54.8	16.1	16.1	22.6	16.1	-	-
	1000万円以上	17	70.6	47.1	29.4	-	29.4	17.6	-	5.9

参考までに内緒の資産額別の傾向をみると、「結婚前に貯めていたお金をとっておいた」は、【100万円以上】ではいずれも5割を超えており、【100万円未満】(37.5%)では低めになっています。一方、「財産分与や遺産など自分の親戚関連の資産」と「株式投資、FXなど資産運用で増やした」は、【500万円以上】など、高額な資産を保有している層で突出しています。

図 13. 今年に入ってからの『夫に内緒の資産』の増減



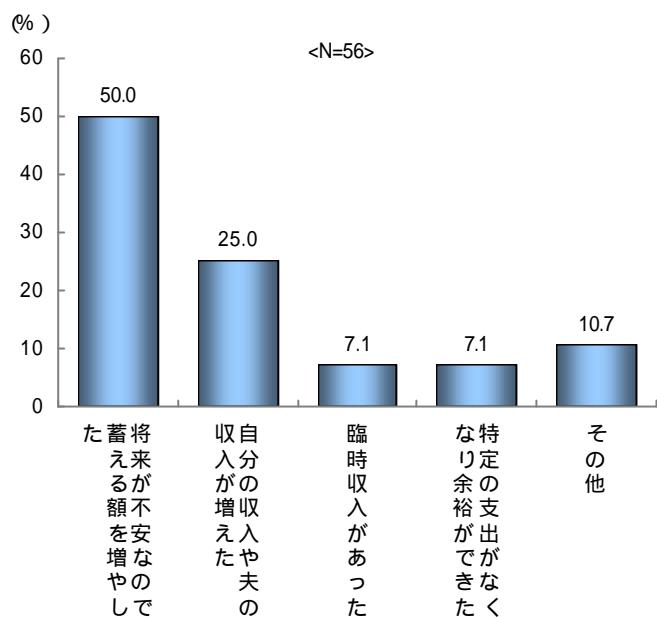
次に、今年に入ってからの『夫に内緒の資産』の増減を聞いたところ、「減った」(37.3%) が約4割を占め、「増えた」(25.8%) を上回っています。「変わらない」(36.9%) が約4割となっています。

- 妻の年代別にみると、「増えた」は《40代》(31.0%) 「減った」は《50代》(50.8%) で最も多くなっています。
- 妻の職業別にみると、「増えた」は《有職主婦》(35.9%) の方が《専業主婦》(14.0%) より 20 ポイント以上多くなっています。
- 世帯年収別にみると、「増えた」は《1000万円以上》(38.8%) で最も多く、一方、「減った」は《600万円未満》(47.4%) で最も多くなっています。

昨冬の調査結果との比較

「増えた」(22.2% 25.8%) が少し増加し、「減った」(40.6% 37.3%) は少し減少しています。

図 14 「増えた」最も大きな理由



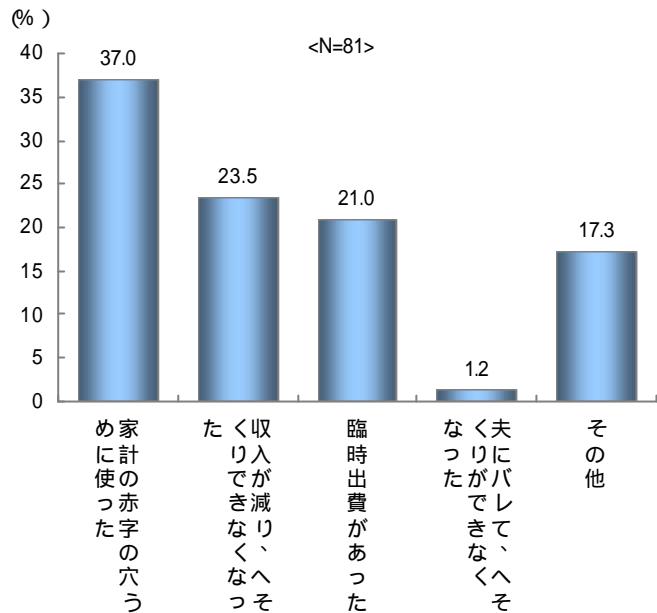
増えた人の理由をみると、「将来が不安なので貯まる額を増やした」(50.0%) がトップで、以下、「自分の収入や夫の収入が増えた」(25.0%) 「特定の支出がなくなり余裕ができた」 「臨時収入があった」(各 7.1%) の順となっています。

なお、「臨時収入」の具体的な内容は、「遺産」、「生前贈与」、「保険の満期」、「利子がよかつた時の貯金」があげられています。

昨冬の調査結果との比較

昨冬の調査結果も「将来が不安なので貯まる額を増やした」がトップでしたが、回答率は 34.6% 50.0% と大幅に増加しました。一方、「臨時収入があった」(28.8% 7.1%) という理由は大幅に減っています。

図 15. 「減った」最も大きな理由



一方、減った人の理由は、「家計の赤字の穴うめに使った」(37.0%)がトップ、次いで、「収入が減り、へそくりできなくなつた」(23.5%)、「臨時出費があつた」(21.0%)が続いています。

なお、「臨時出費」の具体的な内容は、「家の購入やリフォーム」(4人)、「医療費」(3人)、「エステ」(3人)、「車の購入や修理」(2人)、「子供の結婚や出産」(2人)、「生人の借金返済」、「旅行」(各1人)があげられています。

昨冬の調査結果との比較

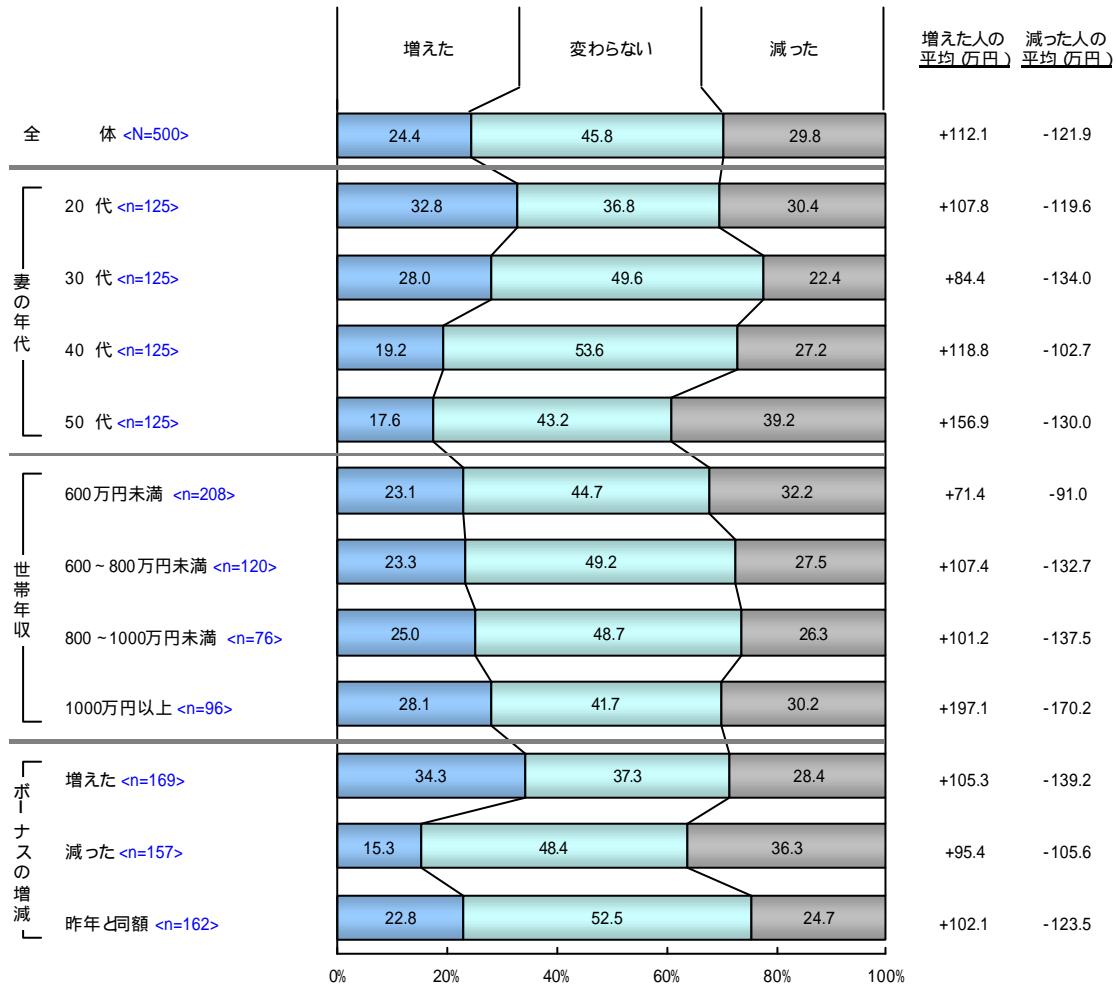
昨冬の調査結果は、「臨時出費があつた」(37.9%)、「赤字の穴うめに使った」(24.2%)、「収入が減り、へそくりできなくなつた」(17.9%)の順となっています。

「赤字の穴うめに使った」(24.2% 37.0%)、「収入が減りへそくりできなくなつた」(17.9% 23.5%)が増え、「臨時出費があつた」(37.9% 21.0%)という理由は減っています。

2. 金融資産の残高は増えたか

「減った」(29.8%)が「増えた」(24.4%)を少し上回る。
 「増えた」人の平均増加額は112.1万円、「減った」人の平均減少額は121.9万円。

図 16. 金融資産の残高は増えたか



預貯金や運用などを合わせた「金融資産の残高」(不動産や夫に内緒の資産は含まない)は今年1年で増えたかどうかを聞いたところ、「変わらない」(45.8%)という回答が多く半数近くを占めていますが、「減った」(29.8%)が「増えた」(24.4%)を少し上回り、家計の足踏み状況がうかがえます。

なお、増減額を見ると、「増えた」人の平均増加額は112.1万円、「減った」人の平均減少額は121.9万円となっています。

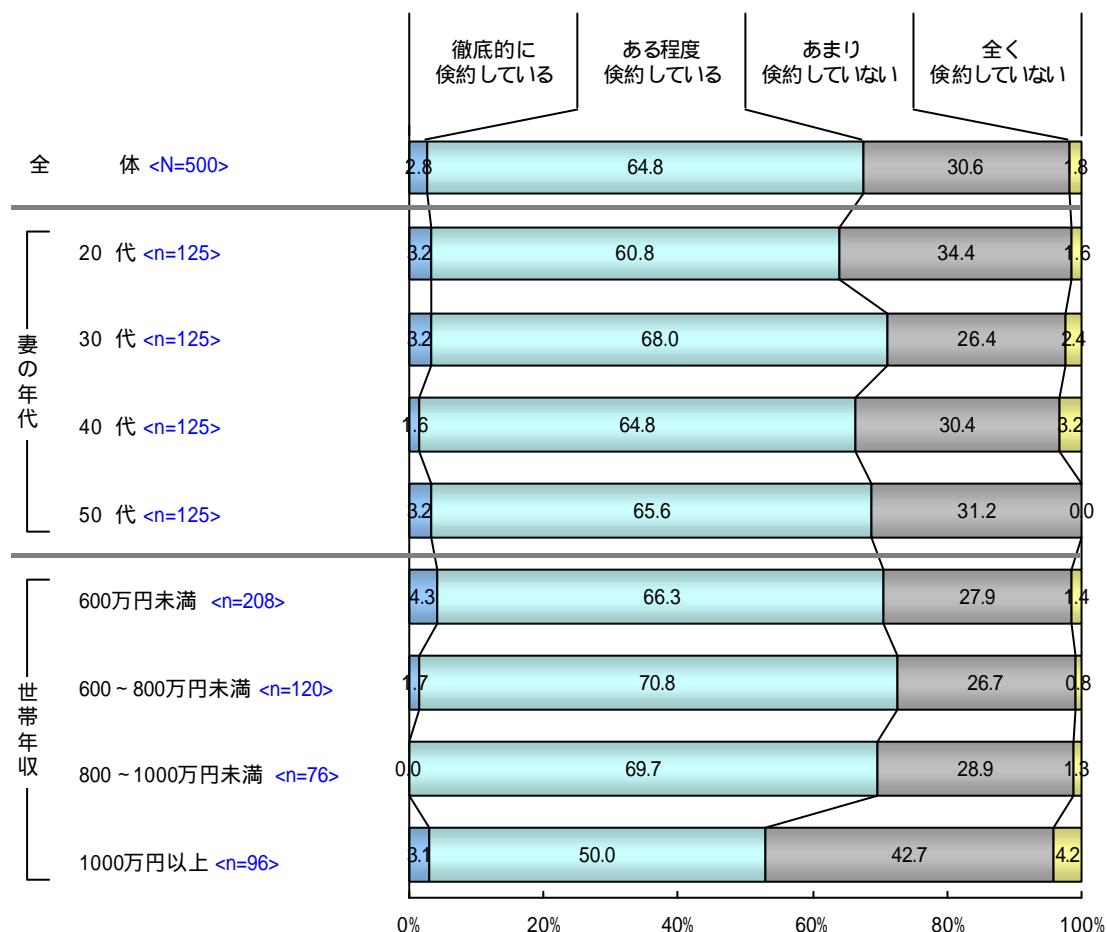
- 妻の年代別にみると、若い年代ほど「増えた」という割合が多く、《0代》では32.8%であるのに対しても《0代》は17.6%にとどまっています。
- 世帯年収別にみると、年収が高まるにつれ「増えた」の割合は多くなっていますが、《600万円未満》が23.1%、《1,000万円以上》が28.1%で、あまり大きな差はありません。

3. “ 儉約生活 ” について

(1) 儉約生活をしているか

家計費節約のために “ 儉約している ” (徹底的に + ある程度 儉約している) 主婦が 67.6 % 。

図 17. 儉約生活をしているか



家計費節約のために 儉約生活をしているかどうかを聞いた結果、 “ 儉約している ” (67.6 %) が約 7 割、 “ 儉約していない ” (32.4 %) が約 3 割で、多くの主婦が 儉約生活をしている という結果になりました。

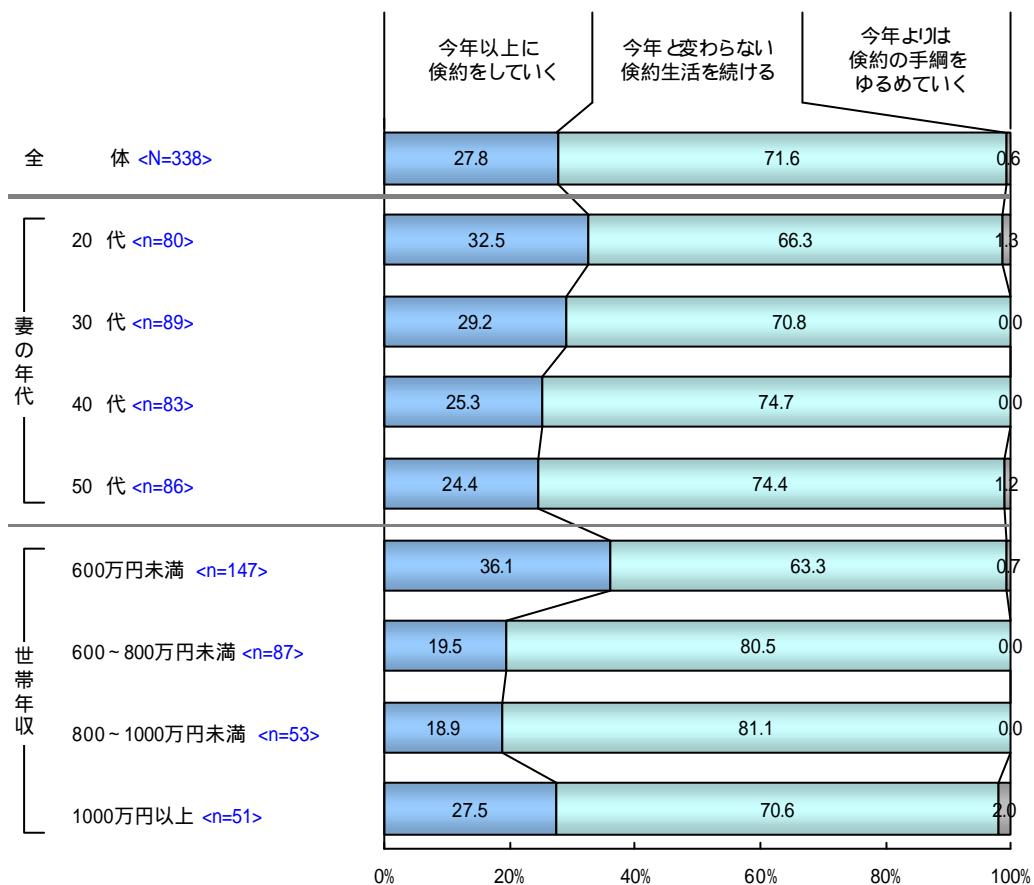
- 年代別には、あまり違いはありませんが、 “ 儉約している ” 割合は《 30 代》 (71.2 %) が最も多くなっています。
- 世帯年収別には、 “ 儉約している ” 割合は《 1,000 万円以上》は 53.1 % と少なく、他の年代ではいずれも “ 儉約している ” が 7 割前後となっています。

(2) 来年の儂約生活はどうするつもりか

儂約生活をしている主婦は、「今年と変わらない儂約生活を続ける」(71.6%)が7割強、「今年以上に儂約をしていく」(27.8%)が約3割。

儂約生活をしていない主婦は、「来年はある程度儂約を考えた生活をするつもり」(50.0%)が5割、「今年と変わらない生活をするつもり」(46.9%)もほぼ5割。

図 18 . 来年の儂約生活はどうするか(儂約している人)

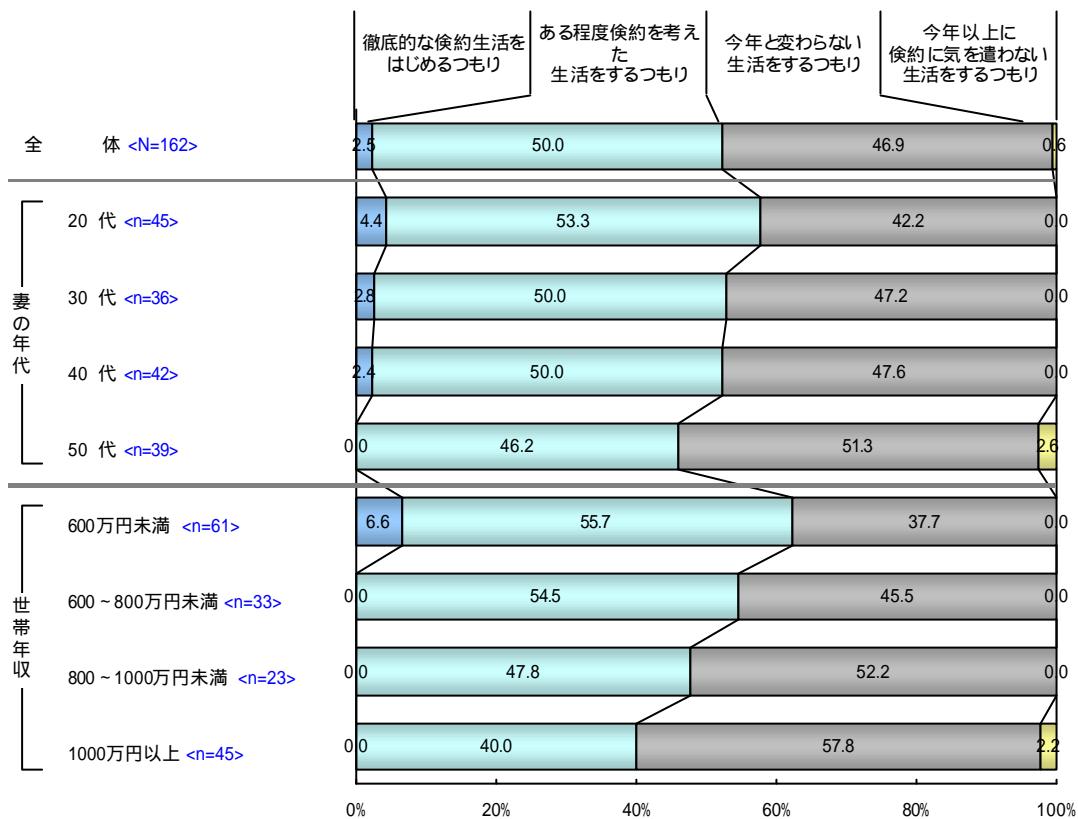


「儂約している」と回答した主婦に、来年はどうするかを聞いたところ、「今年と変わらない儂約生活を続ける」(71.6%)が約7割と最も多く、「今年以上に儂約をしていく」(27.8%)が約3割となっています。「今年よりは儂約の手綱をゆるめていく」(0.6%)、「儂約生活は終わりにする」(0.0%)といった回答はほとんどありません。

主婦は、来年も今年並みもしくは今年以上の儂約生活を続けようとしているようです。

- 年代別にみると、「今年以上に儂約をしていく」という回答は、若い年代ほど多くなっています。
- 世帯年収別では、《600万円未満》は「今年以上に儂約をしていく」(36.1%)が他に比べ非常に多くなっていますが、《1,000万円以上》も27.5%と他の世帯年収より儂約志向が高いという結果になりました。

図 19. 来年の儉約生活はどうするか（儉約していない人）



次に、“儉約していない”と回答した主婦に、来年はどうするかを聞いたところ、「来年はある程度儉約を考えた生活をするつもり」(50.0%)が5割、「今年と変わらない生活をするつもり」(46.9%)をほぼ5割となっています。

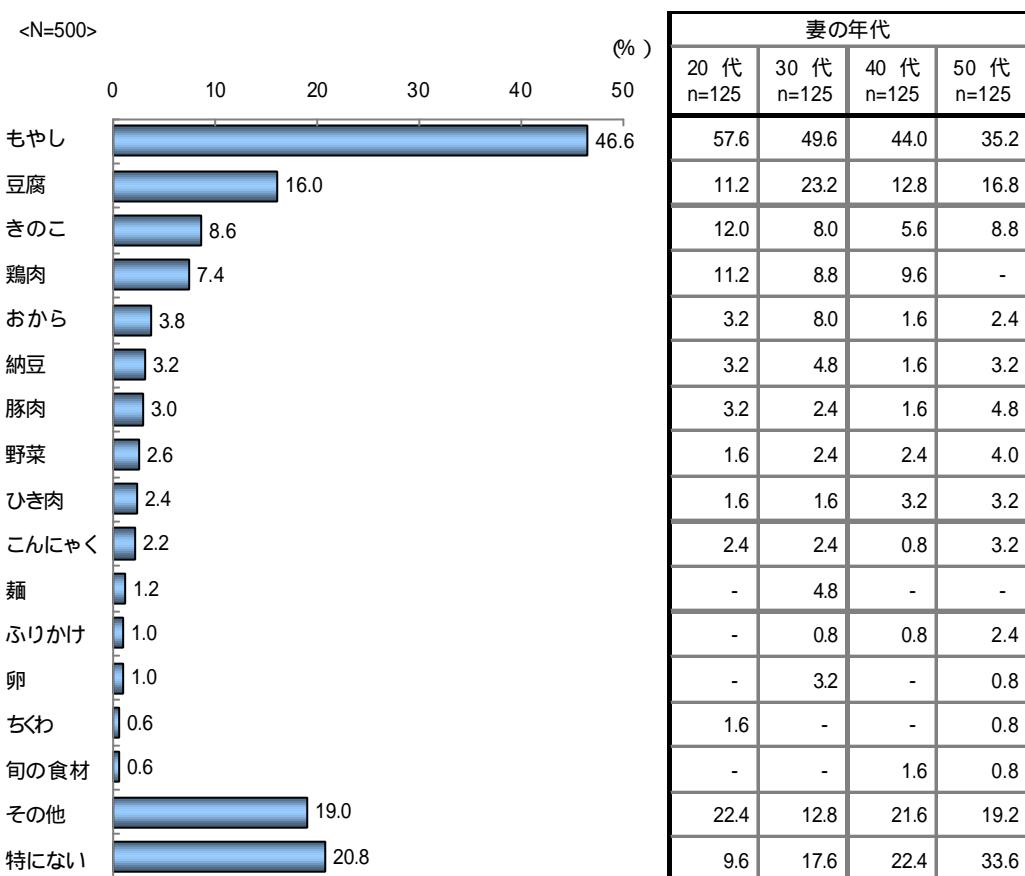
「来年は徹底的な儉約生活をはじめるつもり」(2.5%)や「今年以上に儉約に気を遣わない生活をするつもり」(0.6%)といった回答は少数でした。

- 年代別にみると、「来年はある程度儉約を考えた生活をするつもり」という回答は、若い年代ほど多くなる傾向にあります。しかし、大きな差はありません。

(3) 家計節約のために取り入れたい食材

「もやし」(46.6%)が最も多く、「豆腐」(16.0%)、「きのこ」(8.6%)がトップ3。

図 20 . 家計節約のために取り入れたい食材



家計費節約のために取り入れた、または取り入れたいと思う食材を聞いたところ、最も多くあげられたのが「もやし」(46.6%)で、以下、「豆腐」(16.0%)、「きのこ」(8.6%)、「鶏肉」(7.4%)などとなっています。

- 年代別にみると、「もやし」「きのこ」「鶏肉」という回答は《0代》に多く、「豆腐」は《0代》で多くなっています。

(4) 今年行った節約術

最も多かった節約術は、衣生活では「なるべく買わない」(112 件)、食生活では「タイムサービスや特売の活用」(63 件)、住生活では「エコ家電に買い換え」(88 件)、交通手段では「自転車の利用」(95 件)、その他では「ポイントを貯める」(26 件)。

衣・食・住・交通手段など、今年行った節約術について自由にあげてもらいました。

衣生活関連での節約術（自由回答）

順位		件数
1	なるべく買わない	112
2	リサイクルショップなどで古着を購入	35
3	安い販売店で購入	27
4	ほこりびを繕ってリユース	26
5	手作りする・リメイクする	24
6	セール・バーゲンの時に買う	19
7	古着を売る	16
	大事に長く着る	16

順位		件数
9	古着を雑巾にして使用するなどのリユース	13
10	アウトレットで安く購入	10
	オークションで安く購入	10
12	おさがりをもらう	9
13	プラント品・流行品を避ける	6
14	クリーニングに出さず、家で洗濯する	4
	フリーマーケットで購入	4

衣生活関連での節約術としては、「なるべく買わない」(112 件)が最も多く、以下、「リサイクルショップなどで古着を購入」(35 件)、「安い販売店で購入」(27 件)、「ほこりびを繕ってリユース」(26 件)、「手作りする・リメイクする」(24 件)、「セール・バーゲンの時に買う」(19 件)、「古着を売る」(16 件)、「大事に長く着る」(16 件)などがあげられています。

食生活関連での節約術（自由回答）

順位		件数
1	タイムサービスや特売の活用	63
2	見切り品、半額シールの品を買う	55
3	ビールを第 3 のビール等の安いものにする	43
4	外食を控える	41
5	パンやお菓子を手作りする	34
6	安いスーパー・ディスカウントショップで買う	28
7	なるべく安い商品を買う/P B商品の購入	25
8	アルコールを控える/禁酒	16
	買い物の回数を減らす	16
10	まとめ買いをする	10

順位		件数
11	チラシや広告をチェックする	9
12	惣菜や弁当を買わない	8
	必要最低限の買い物をする	8
	冷蔵庫の中身を使い切る	8
	冷凍庫を活用する	8
16	おやつやお菓子を控える	6
	外出に弁当を作る	6
18	おかずを一品減らす、量を減らす	5
19	家庭菜園を始めた	4

食生活関連での節約術としては、「タイムサービスや特売の活用」(63 件)、「見切り品、半額シールの品を買う」(55 件)、「ビールを第 3 のビールにする」(43 件)、「外食を控える」(41 件)、「パンやお菓子を手作りする」(34 件)、「安いスーパー・ディスカウントショップで買う」(28 件)、「なるべく安い商品を買う/P B商品の購入」(25 件)などがあげられています。

中には、「アルコールを控える/禁酒」(16 件)、「おやつやお菓子を控える」(6 件)、「外出に弁当を作る」(6 件)、「おかずを一品減らす、量を減らす」(5 件)など、一步踏み込んだ厳しい対策も行われています。

住生活関連での節約術（自由回答）

順位		件数
1	エコ家電に買い換え	88
2	冷暖房の節約	56
3	なるべく買わない	45
4	断熱カーテンなど断熱材の利用	17
5	まめに電気を消す、ケーブルを抜く	14
6	リサイクル家具を購入	8
7	オール電化	7
	風呂の残り湯で洗濯する	7
9	なるべく家にいないようにする	5

住生活関連での節約術としては、「エコ家電に買い換え」(88件)が最も多く、以下、「冷暖房の節約」(56件)、「なるべく買わない」(45件)、「断熱カーテンなど断熱材の利用」(17件)、「まめに電気を消す、ケーブルを抜く」(14件)、「リサイクル家具を購入」(8件)、「オール電化」(7件)、「風呂の残り湯で洗濯する」(7件)などがあげられ、エコ生活による水道光熱費の節約対策が多く見られます。中には、「なるべく家にいないようにする」(5件)という主婦もいました。

交通手段での節約術（自由回答）

順位		件数
1	自転車の利用(電動アシスト自転車含む)	95
2	歩く	80
3	バス、電車	22
4	車に乗らない	20
5	ハイブリッドカーの購入	13
6	あまり外出しないようにする	11
7	タクシーを使わない	5
8	ガソリンを安く買う	4
	自家用車を売る	4
	普通車から軽自動車へ	4

交通手段での節約術としては、「自転車の利用(電動アシスト自転車含む)」(95件)と「歩く」(80件)が非常に多く、以下、「バス、電車」(22件)、「車に乗らない」(20件)、「ハイブリッドカーの購入」(13件)、「あまり外出しないようにする」(11件)などがあげられています。車から自転車あるいは歩きへのスイッチ、バスや電車の利用、車に乗らないといった対策が中心となっています。中には、「自家用車を売る」(4件)という回答もありました。

その他の節約術（自由回答）

順位		件数
1	ネットオークションの活用	44
2	ポイントを貯める / ポイントカードのある店を優先	26
3	リサイクルショップ、フリーマーケットの活用	13
4	インターネットで価格比較してから買い物をする	10
	とにかく不要な物は買わない	10
	懸賞に応募する	10
7	買い物に行く回数を減らす・買い物に行かない	9
8	風呂の残り湯で洗濯する	7
9	ティッシュは外でもらう	6

その他の節約術としては、「ネットオークションの活用」(44 件)、「ポイントを貯める / ポイントカードのある店を優先」(26 件)、「リサイクルショップ、フリーマーケットの活用」(13 件)、「インターネットで価格比較してから買い物をする」(10 件)、「とにかく不要な物は買わない」(10 件)、「懸賞に応募する」(10 件)、「買い物に行く回数を減らす・買い物に行かない」(9 件)、「風呂の残り湯で洗濯する」(7 件)、「ティッシュは外でもらう」(6 件)などがあげられています。

(5) ガラパゴス化したような独特的節約法

「牛乳パックをまな板に」「割り箸を洗って再利用」「古着を雑巾に再利用」。

表 9 . ガラパゴス化したような独特的節約法 (自由回答)

順位		件数
1	牛乳パックをまな板にする	16
2	割り箸を洗って再利用する	12
3	古着などを雑巾に再利用する	9
4	ビニール袋や古新聞を生ごみ入れにする	5
	牛乳パックを踏み台や椅子にする	5
6	ティッシュは半分に切って使用する	4

ガラパゴス化した独特的節約法については回答者は多くありませんが、「牛乳パックをまな板にする」(16 件)、「割り箸を洗って再利用する」(12 件)、「古着などを雑巾に再利用する」(9 件)、「ビニール袋や古新聞を生ごみ入れにする」(5 件)、「牛乳パックを踏み台や椅子にする」(5 件)、「ティッシュは半分に切って使用する」(4 件)などがあげられています。

ガラパゴス化とは

生物の世界で言うガラパゴス諸島における現象のように、文化・制度・技術・サービスなどが日本独自の進化を遂げ、世界標準から掛け離れてしまう現象のこと。世界の最先端の技術にもかかわらず、外国では全く普及していない日本の携帯電話の特異性を表現するために登場した新語。転じて、世間では見られない標準的な使い方からかけ離れたユニークな使い方などを指します。

(6) 来年、今年よりも節約しようと考えているもの

「食費」(229 件)、外食費」(60 件)、服飾費」(45 件)がトップ3。

表 10. 来年、節約しようと考えているもの(自由回答)

順位		件数
1	食費	229
2	外食費	60
3	服飾費	45
4	光熱費	41
5	交際費	40
6	趣味に使うお金	35

順位		件数
7	お菓子やたばこなど嗜好品	18
8	レジャー費や旅費	17
9	夫の小遣い	10
10	自分の小遣い	6
11	通信費	3
12	教育費	2

今年より節約しようと考えているものを自由にあげてもらった結果を見ると、圧倒的に多かったのが「食費」で229件、次いで「外食費」の60件でした。来年は食関連の支出を抑えようと考えている主婦が多いようです。

以下、「服飾費」(45件)、「光熱費」(41件)、「交際費」(40件)、「趣味に使うお金」(35件)、「お菓子やたばこなど嗜好品」(18件)、「レジャー費や旅費」(17件)などとなっています。また、「夫の小遣い」(10件)や「自分の小遣い」(6件)も節約対象となっていますが、どちらかといえば「夫の小遣い」が先に削られそうです。

(7) 来年の支出を増やそう・購入しようと考えているもの

「レジャー費や旅費」(121件)、「家電」(62件)、「教育費」(46件)がトップ3。

表 11. 来年の支出を増やそう・購入しようと考えているもの(自由回答)

順位		件数
1	レジャー費や旅費	121
2	家電	62
3	教育費	46
4	住宅関連	34
5	子供にかけるお金	15
6	服飾費	13
7	自分の小遣い	12

順位		件数
8	車	11
	趣味に使うお金	11
10	外食	9
11	貯金	8
12	食費	6
13	夫の小遣い	4
	交際費	4

次に、今年より支出を増やしたい、購入したいと考えているものを自由にあげてもらった結果を見ると、「レジャー費や旅費」が最も多く121件、次いで「家電」(62件)があげられています。以下、「教育費」(46件)、「住宅関連」(34件)、「子供にかけるお金」(15件)、「服飾費」(13件)、「自分の小遣い」(12件)、「車」(11件)、「趣味に使うお金」(11件)などとなっています。

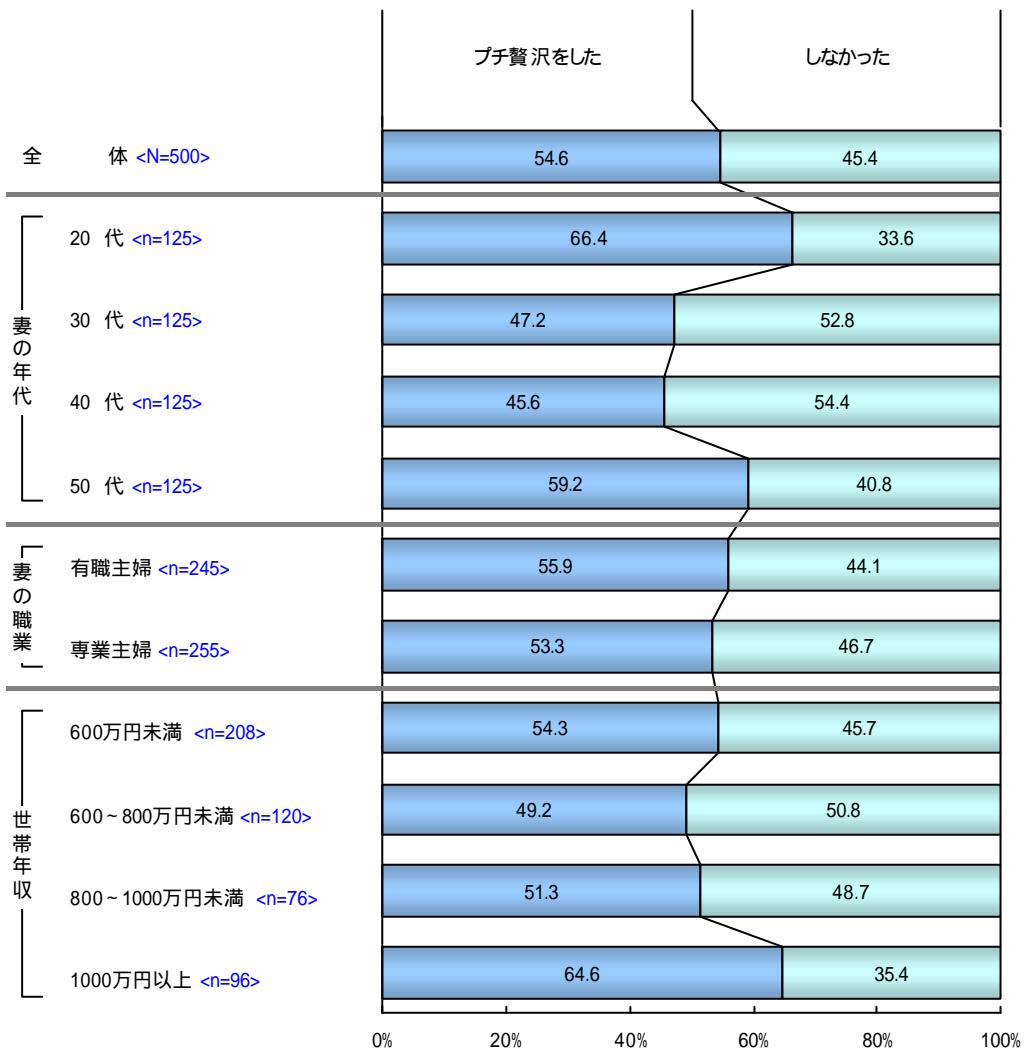
来年こそは、レジャー・旅行を楽しみたいという願望が強いようです。

4. プチ贅沢

(1) この半年間にプチ贅沢をしたか

「プチ贅沢をした」(54.6%)が半数を超える。

図 21 . この半年間にプチ贅沢をしたか



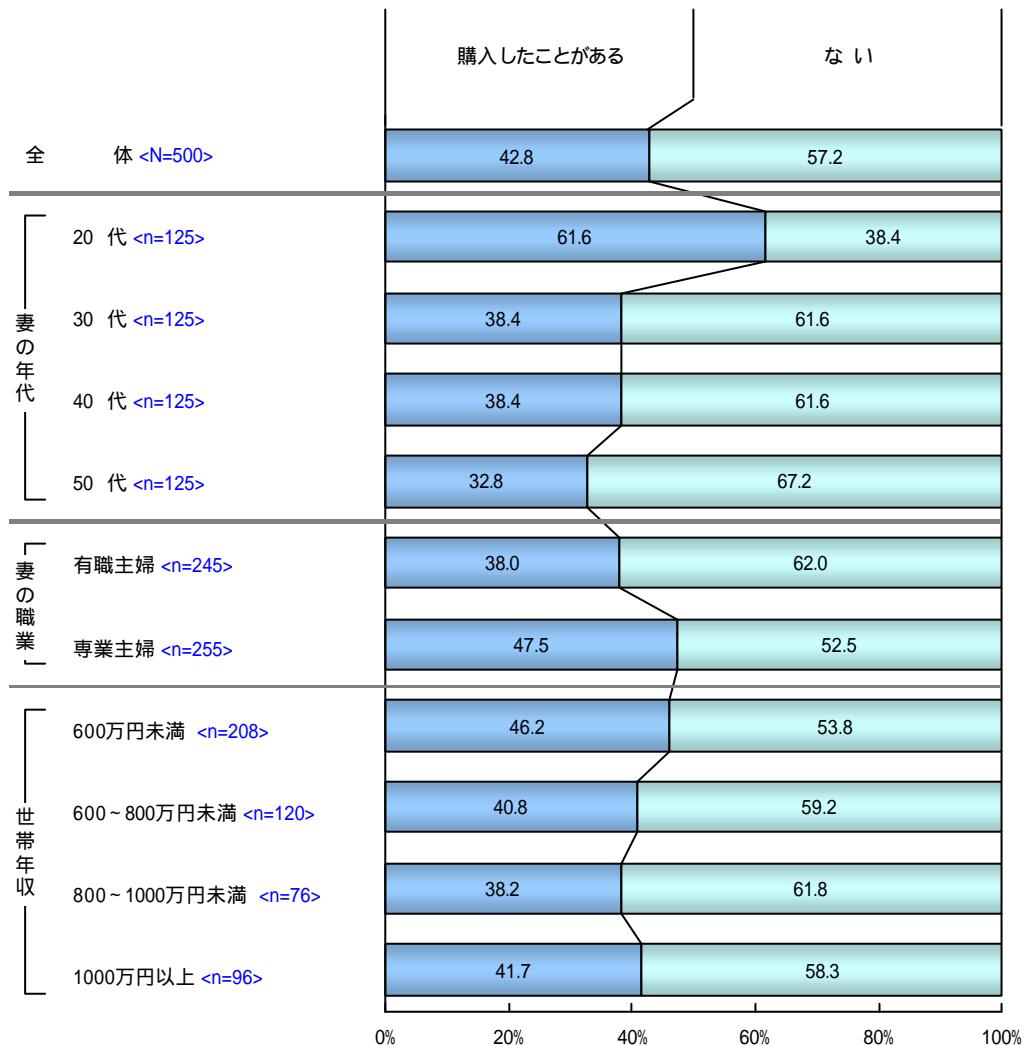
この半年間に何かプチ贅沢をしたかを聞いたところ、「プチ贅沢をした」(54.6%)が、「しなかった」(45.4%)を少し上回りました。

- 妻の年代別にみると、「プチ贅沢をした」は《20 代》(66.4%)が最も多く、《40 代》(45.6%)が最も少なくなっています。
- 世帯年収別にみると、「プチ贅沢をした」は《1,000 万円以上》(64.6%)が最も多いものの、他の世帯年収も概ね 5 割前後となっています。

(2) 付録付きの雑誌の購入経験

「購入したことがある」(42.8%)主婦が約4割。
一番嬉しかった付録は「バッグ・かばん」が最も多く107件。

図 22. 付録付きの雑誌を購入したことがあるか



近年、付録付き雑誌がブームになっていますが、付録付き雑誌の購入経験を聞いたところ、「購入したことがある」主婦は42.8%と約4割となっています。

- 妻の年代別にみると、「購入したことがある」は『20代』(61.6%)が最も多く、『50代』(32.8%)が最も少なく、若い主婦ほど購入経験が多くなっています。
- 世帯年収別にみると、「購入したことがある」は『600万円未満』(46.2%)の層が最も高く、他の年収層を上回っています。

表 12. 一番嬉しかった付録（自由回答）

順位		件数
1	バッグ・かばん	107
2	ポーチ	21
3	美顔ローラー	11
4	シリコン鍋	7
5	化粧品のサンプル	6
6	手帳	5
	カードケース・財布	5
8	カレンダー	3
	靴下	3
10	鏡	2

付録付き雑誌を購入した主婦に一番嬉しかった付録を自由にあげてもらったところ、「バッグ・かばん」が最も多く107件でした。以下、「ポーチ」(21件)、「美顔ローラー」(11件)、「シリコン鍋」(7件)、「化粧品サンプル」(6件)、「カードケース・財布」(5件)、「手帳」(5件)、「カレンダー」(3件)、「靴下」(3件)、「鏡」(2件)などとなっています。

(3) 付録付き雑誌についての意識

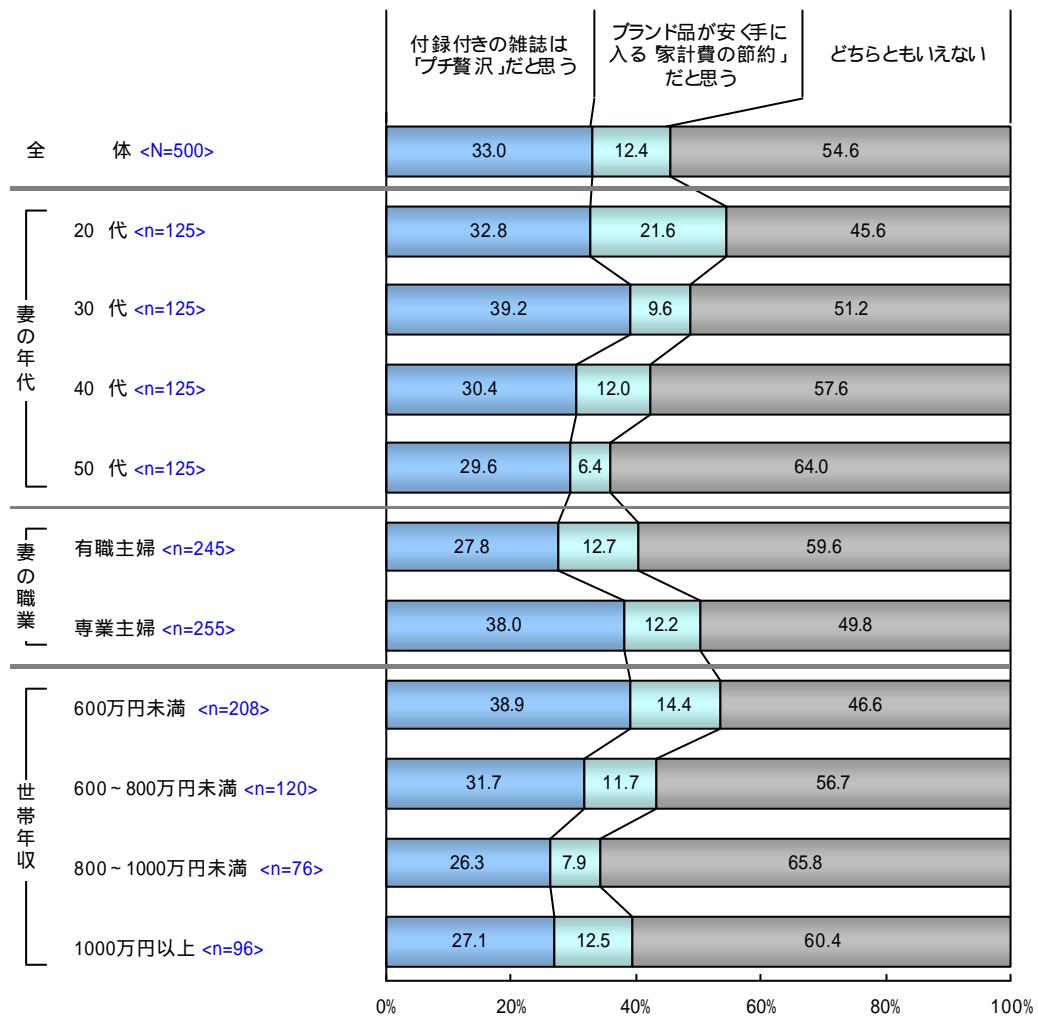
付録付きの雑誌は「プチ贅沢だと思う」33.0%、「ブランド品が安く手に入るので家計費の節約だと思う」12.4%。

世帯収入の少ない層ほど「プチ贅沢だと思う」という意識が強い。

専業主婦の方が有職主婦よりも「プチ贅沢だと思う」という意識が強い。

『0代』は「家計費の節約」(21.6%)、『0代』は「プチ贅沢」(39.2%)と意識に違いがある。

図 23. 付録付きの雑誌についての意識



次に、付録付き雑誌に対する意識を聞いたところ、「付録付きの雑誌は「プチ贅沢だと思う」」が33.0%、「ブランド品が安く手に入るので家計費の節約だと思う」が12.4%で、プチ贅沢という意識の方が強そうですが、「どちらともいえない」(54.6%)が半数以上を占めています。

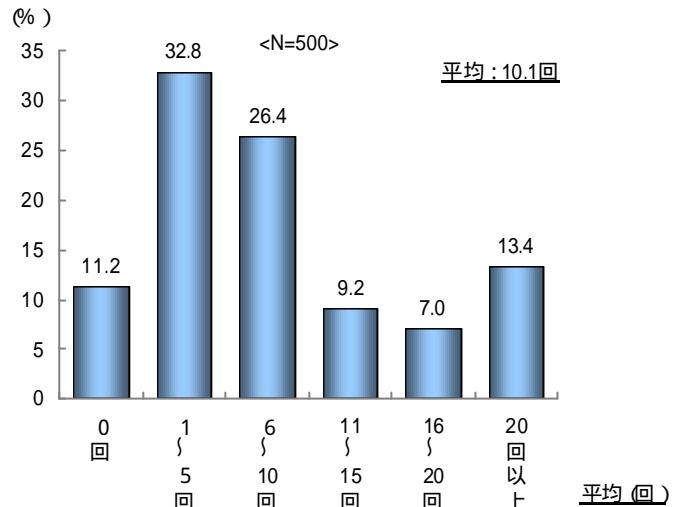
- 妻の年代別にみると、「プチ贅沢だと思う」は『0代』(39.2%)で最も多く、「家計費の節約だと思う」は『0代』(21.6%)で最も多くなっています。
- 世帯年収別にみると、「付録付きの雑誌は「プチ贅沢だと思う」という意識は、収入が少ない世帯ほど強いようで、『600万円未満』では38.9%に対し、『1,000万円以上』では27.1%にとどまります。

5. 外食の頻度と金額について

(1) この半年間の夫婦もしくは家族での外食状況

半年間の外食回数は「1～5回」が32.8%、「6～10回」が26.4%で、平均10.1回。
1回1人当たりの平均金額は2,500円。最高額の平均は5,289円。

図24. この半年間の夫婦もしくは家族での外食回数

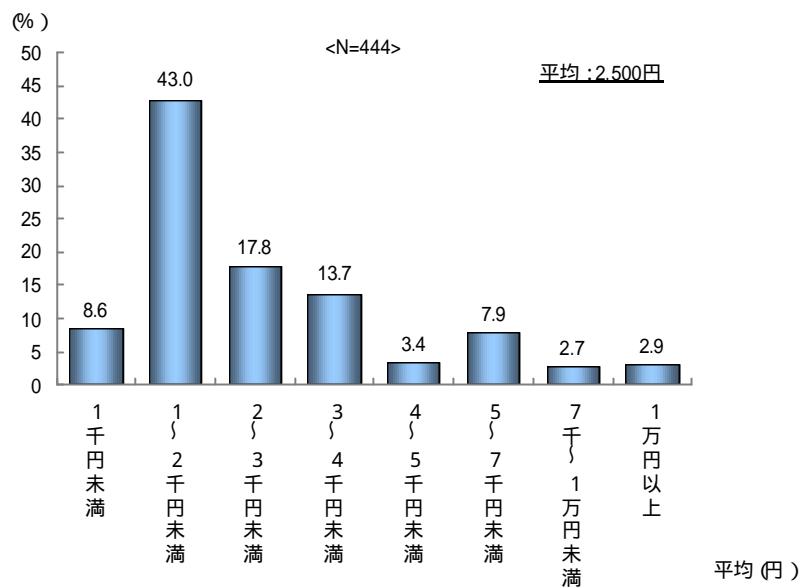


妻の年代	20代 <n=125>	<N=500>						平均 (回)
		0	1~5	6~10	11~15	16~20	20回以上	
20代 <n=125>	4.8	26.4	28.0	8.0	16.0	16.8	13.1	13.1
30代 <n=125>	9.6	33.6	27.2	9.6	5.6	14.4	10.2	10.2
40代 <n=125>	13.6	29.6	28.0	12.0	1.6	15.2	10.1	10.1
50代 <n=125>	16.8	41.6	22.4	7.2	4.8	7.2	7.3	7.3
妻職の業	有職主婦 <n=245>	10.2	34.3	26.5	9.4	6.1	13.5	10.0
扶の養子中供	専業主婦 <n=255>	12.2	31.4	26.3	9.0	7.8	13.3	10.2
扶の養子中供	いる <n=293>	13.3	36.5	26.6	9.2	5.8	8.5	8.5
扶の養子中供	いない <n=207>	8.2	27.5	26.1	9.2	8.7	20.3	12.5
世帯年収	600万円未満 <n=208>	10.1	34.1	24.5	7.7	11.1	12.5	10.0
世帯年収	600～800万円未満 <n=120>	14.2	32.5	26.7	8.3	4.2	14.2	9.7
世帯年収	800～1000万円未満 <n=76>	14.5	31.6	28.9	13.2	2.6	9.2	8.6
世帯年収	1000万円以上 <n=96>	7.3	31.3	28.1	10.4	5.2	17.7	12.1

夫婦もしくは家族での最近半年間の外食回数は、「1～5回」(32.8%)が最も多く、次いで「6～10回」(26.4%)となっています。以下、「20回以上」(13.4%)、「11～15回」(9.2%)、「16～20回」(7.0%)の順で、「0回」(外食をしなかった)という世帯も約1割(11.2%)ありました。平均は10.1回となっています。

- 妻の年代別にみると、平均回数が最も多いのが「20代」(13.1回)で、最も少ないのは「50代」(7.3回)でした。若い主婦ほど夫や家族との外食回数が多い傾向にあります。
- 独立していない子供(扶養中の子供)の有無別にみると、「いない」(12.5回)の方が「いる」(8.5回)よりも平均回数は多めとなっています。

図 25. この半年間に夫婦もしくは家族での外食に使った 1 回 1 人あたりの平均金額

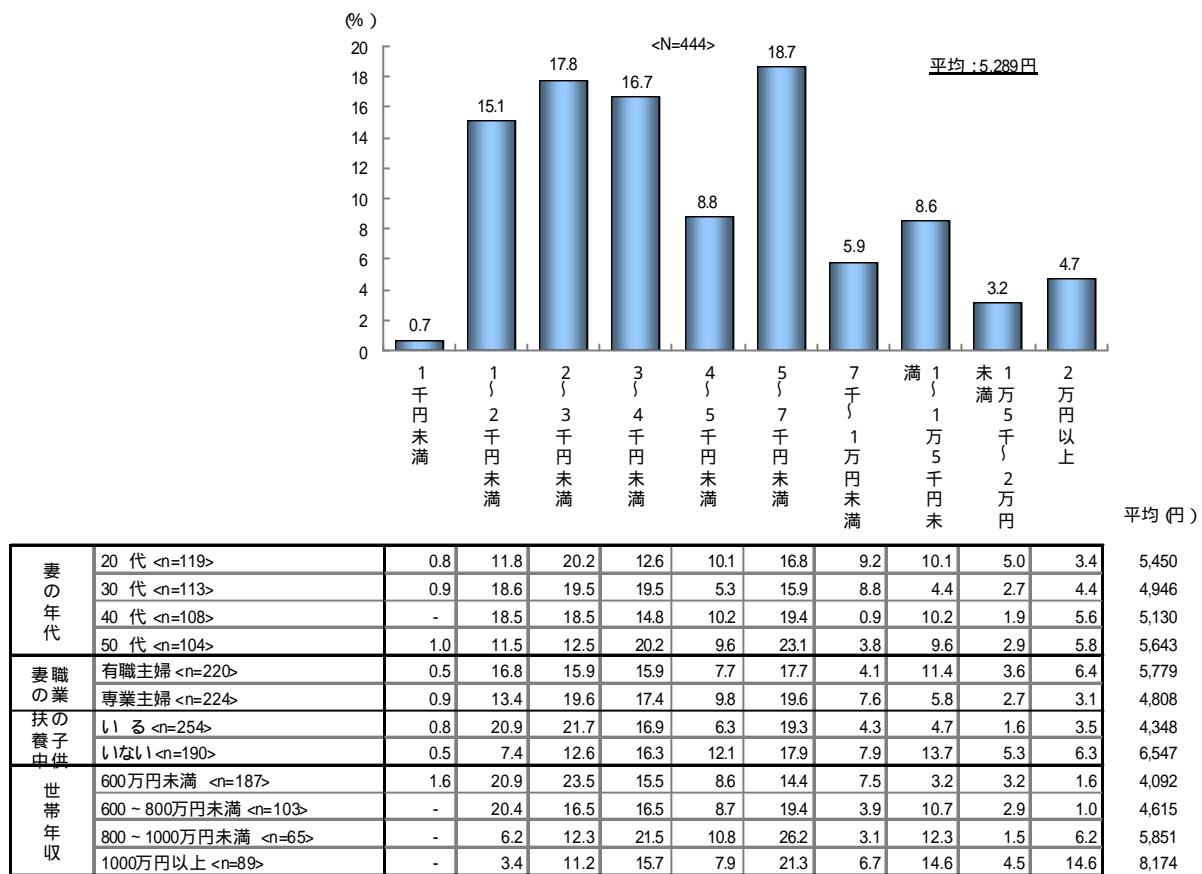


妻の年代	20 代 <n=119>	7.6	48.7	18.5	12.6	3.4	6.7	0.8	1.7
	30 代 <n=113>	14.2	42.5	18.6	11.5	2.7	5.3	3.5	1.8
40 代 <n=108>	7.4	42.6	16.7	13.0	4.6	7.4	3.7	4.6	
50 代 <n=104>	4.8	37.5	17.3	18.3	2.9	12.5	2.9	3.8	
妻職の業	有職主婦 <n=220>	6.8	42.7	18.2	13.2	4.1	7.7	2.7	4.5
	専業主婦 <n=224>	10.3	43.3	17.4	14.3	2.7	8.0	2.7	1.3
扶の養子由仕	いる <n=254>	11.8	46.9	13.8	13.8	3.9	5.5	2.0	2.4
	いない <n=190>	4.2	37.9	23.2	13.7	2.6	11.1	3.7	3.7
世帯年収	600万円未満 <n=187>	13.9	51.9	15.5	9.6	1.6	5.3	1.6	0.5
	600~800万円未満 <n=103>	6.8	46.6	15.5	16.5	3.9	3.9	2.9	3.9
	800~1000万円未満 <n=65>	4.6	32.3	26.2	15.4	6.2	13.8	1.5	-
	1000万円以上 <n=89>	2.2	28.1	19.1	18.0	4.5	13.5	5.6	9.0

1 回 1 人当たりの外食費用は、「1~2 千円未満」(43.0%) が最も多く、次に「2~3 千円未満」(17.8%) が多くなっています。「7 千~1 万円未満」(2.7%)、「1 万円以上」(2.9%) など 1 人当たり 7 千円以上という贅沢な外食を楽しんでいる主婦も 5% 強いました。平均金額は 2,500 円でした。

- 妻の年代別にみると、年代が高くなるほど平均金額も上がり、《20 代》(2,136 円) に比べ《50 代》(3,035 円) は約 1.4 倍となっています。
- 世帯年収別にみると、収入が多い世帯ほど平均金額が上がり、《600 万円未満》(1,906 円) に対し《1,000 万円以上》(3,815 円) は 2 倍となっています。

図 26. この半年間に夫婦もしくは家族での外食に使った 1 回 1 人あたりの最高額



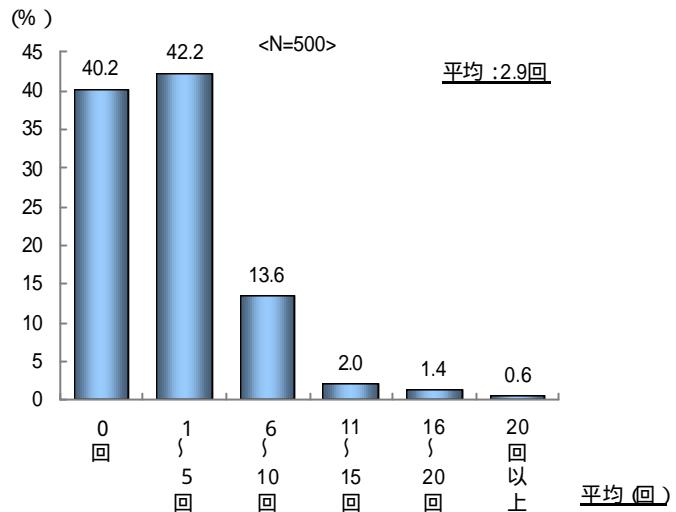
次に 1 回 1 人当たりの最高額を見ると、「5~7 千円未満」(18.7%) が最も多く、以下、「2~3 千円未満」(17.8%)、「3~4 千円未満」(16.7%) などとなっています。最高額の平均は 5,289 円でした。

- 妻の年代別にみると、平均額は『0 代』(4,946 円) が最も低く、『0 代』(5,643 円) が最も高くなっています。
- 世帯年収別にみると、収入が多い世帯ほど平均金額が上がり、『600 万円未満』(4,092 円) に対し『1,000 万円以上』(8,174 円) は 2 倍となっています。

(2) この半年間の友達との外食状況

半年間の外食回数は「1～5回」が42.2%、「6～10回」が40.2%で、平均2.9回。
1回1人当たりの平均金額は2,497円。最高額の平均は3,781円。

図 27 . この半年間の友達との外食回数

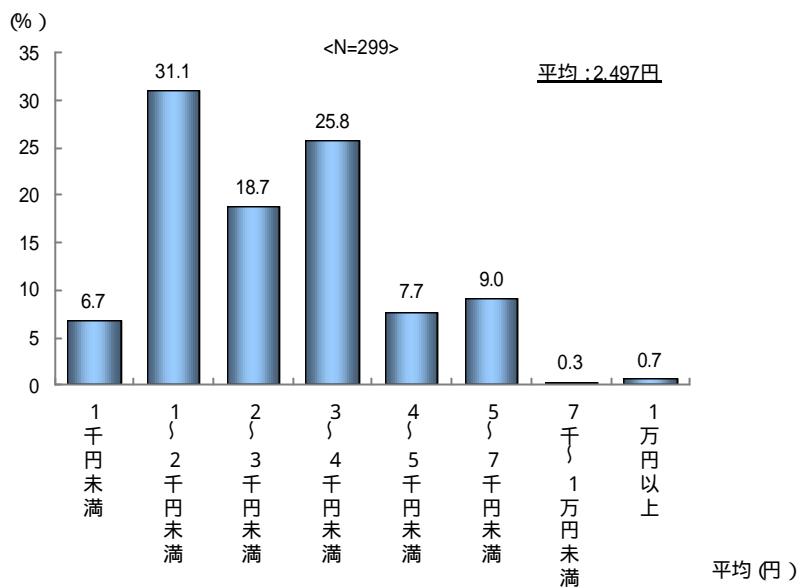


妻の年代	<N=500>						平均(回)
	20代 <n=125>	30代 <n=125>	40代 <n=125>	50代 <n=125>	60代 <n=125>	70代 <n=125>	
20代 <n=125>	32.8	48.0	14.4	3.2	0.8	0.8	3.4
30代 <n=125>	52.0	34.4	9.6	2.4	1.6	-	2.4
40代 <n=125>	42.4	40.0	14.4	1.6	0.8	0.8	2.7
50代 <n=125>	33.6	46.4	16.0	0.8	2.4	0.8	3.3
妻職の業種	有職主婦 <n=245>	35.9	40.8	18.8	2.4	2.0	-
	専業主婦 <n=255>	44.3	43.5	8.6	1.6	0.8	1.2
扶養の子供	いる <n=293>	44.7	40.6	11.9	1.7	0.7	0.3
	いない <n=207>	33.8	44.4	15.9	2.4	2.4	1.0
世帯年収	600万円未満 <n=208>	43.8	42.8	9.6	1.9	1.0	1.0
	600～800万円未満 <n=120>	48.3	37.5	11.7	0.8	1.7	-
	800～1000万円未満 <n=76>	36.8	40.8	18.4	1.3	2.6	-
	1000万円以上 <n=96>	25.0	47.9	20.8	4.2	1.0	1.0

友達との最近半年間の外食回数は、「1～5回」(42.2%)が最も多く、次いで「6～10回」(13.6%)となっています。以下、「11～15回」(2.0%)、「16～20回」(1.4%)、「20回以上」(0.6%)の順となっています。なお、「0回」(友達とは外食をしなかった)が約4割(40.2%)と多く、平均は2.9回となっています。

- 妻の年代別にみると、平均回数が最も多いのが『0代』(3.4回)で、最も少ないのは『0代』(2.4回)でした。
- 妻の職業別にみると、平均回数は、『専業主婦』(2.5回)、『有職主婦』(3.3回)で、『有職主婦』の方が多くなっています。
- 独立していない子供(扶養中の子供)の有無別にみると、『いない』(3.6回)層の方が『いる』(2.5回)より平均回数は多くなっています。
- 世帯年収別にみると、世帯年収が高まるほど平均回数も多くなる傾向にあります。

図 28. この半年間の友達との外食に使った1回1人あたりの平均金額



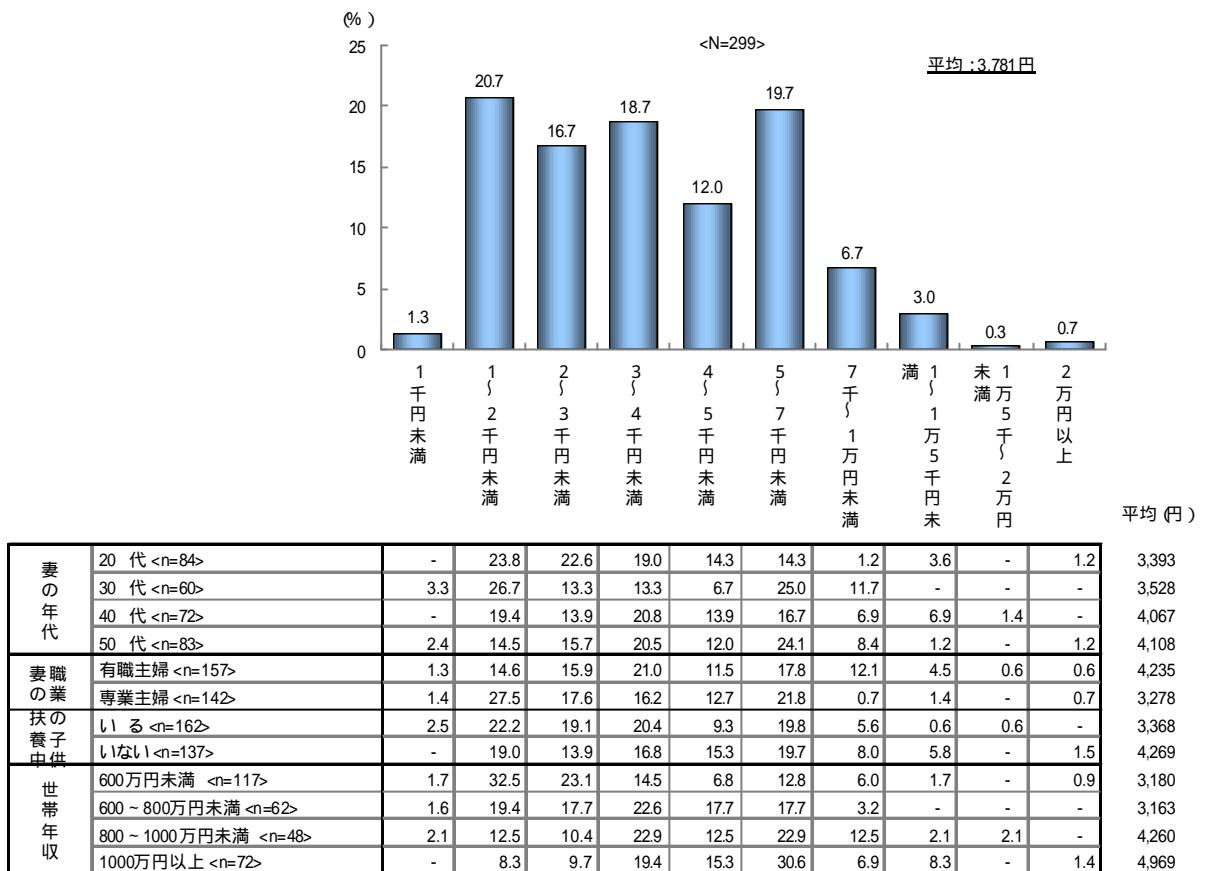
妻の年代	20代 <n=84>		30代 <n=60>		40代 <n=72>		50代 <n=83>		平均 (円)
	20代 <n=84>	30代 <n=60>	40代 <n=72>	50代 <n=83>	20代 <n=84>	30代 <n=60>	40代 <n=72>	50代 <n=83>	
20代 <n=84>	3.6	40.5	19.0	28.6	3.6	4.8	-	-	2,177
30代 <n=60>	13.3	28.3	18.3	21.7	6.7	11.7	-	-	2,357
40代 <n=72>	6.9	23.6	18.1	26.4	11.1	12.5	-	1.4	2,797
50代 <n=83>	4.8	30.1	19.3	25.3	9.6	8.4	1.2	1.2	2,663
妻の職業	有職主婦 <n=157>	4.5	27.4	19.7	26.8	8.3	11.5	0.6	1.3
の業	専業主婦 <n=142>	9.2	35.2	17.6	24.6	7.0	6.3	-	-
扶の養子	いる <n=162>	10.5	34.0	20.4	21.0	6.8	6.8	0.6	-
中供	いない <n=137>	2.2	27.7	16.8	31.4	8.8	11.7	-	1.5
世帯年収	600万円未満 <n=117>	11.1	41.0	14.5	22.2	3.4	6.8	0.9	-
	600~800万円未満 <n=62>	6.5	30.6	27.4	22.6	8.1	4.8	-	-
	800~1000万円未満 <n=48>	2.1	29.2	22.9	27.1	8.3	10.4	-	-
	1000万円以上 <n=72>	2.8	16.7	15.3	33.3	13.9	15.3	-	3,219

友達との1回1人当たりの外食費用は、「1~2千円未満」(31.1%)が最も多く、次に「3~4千円未満」(25.8%)が多くなっています。

平均金額は2,497円で、前述した夫や家族との外食費用とほぼ同額となっています。

- 妻の年代別にみると、年代が高くなるほど平均金額も上がる傾向にあります。大きな違いではありません。
- 妻の職業別にみると、平均金額は、《専業主婦》(2,248円)、《有職主婦》(2,723円)で、《有職主婦》の方が少し高くなっています。
- 独立していない子供(扶養中の子供)の有無別にみると、《いない》(2,776円)方が《いる》(2,262円)よりも平均金額は高くなっています。
- 世帯年収別にみると、収入が多い世帯ほど平均金額が上がり、《600万円未満》(2,133円)に対し《1,000万円以上》(3,219円)は1.5倍となっています。

図 29 . この半年間の友達との外食に使った 1 回 1 人あたりの最高額



次に 1 回 1 人当たりの最高額を見ると、「1~2 千円未満」(20.7%) が最も多く、以下、「5~7 千円未満」(19.7%)、「3~4 千円未満」(18.7%)、「2~3 千円未満」(16.7%)、「4~5 千円未満」(12.0%) などとなっています。

最高額の平均は 3,781 円で、夫や家族との外食の最高額の平均 5,289 円を下回っており、友達との外食の方が金額が少ない結果となりました。

- 妻の年代別にみると、年代が高くなるほど平均額が上がる傾向にあり、『0 代』(3,393 円) に比べ、『0 代』(4,108 円) は 1.2 倍となっています。
- 世帯年収別にみると、収入が多い世帯ほど平均額が上がる傾向にあり、『1,000 万円以上』では 4,969 円となっています。

[4] 主婦のデフレ予測

1. 今年、家計に最も大きな影響を及ぼした出来事

野菜の高騰(141件)、猛暑による光熱費の増加(79件)、たばこの値上げ(36件)がトップ3。

表 13. 今年、家計に最も大きな影響を及ぼした出来事(自由回答)

順位		件数
1	野菜の高騰	141
2	猛暑による光熱費の増加	79
3	たばこの値上げ	36
4	進学などによる教育費の増加	32
5	エコポイント	24
6	子ども手当	23
7	子供や孫の誕生	19
8	電化製品の買い替え	18

順位		件数
9	収入の減少	14
10	医療費	12
11	ガソリン代の高騰	9
12	引っ越し	8
	冠婚葬祭	8
14	車の買い換え・エコカー補助金	7
	住宅のメンテナンス	7

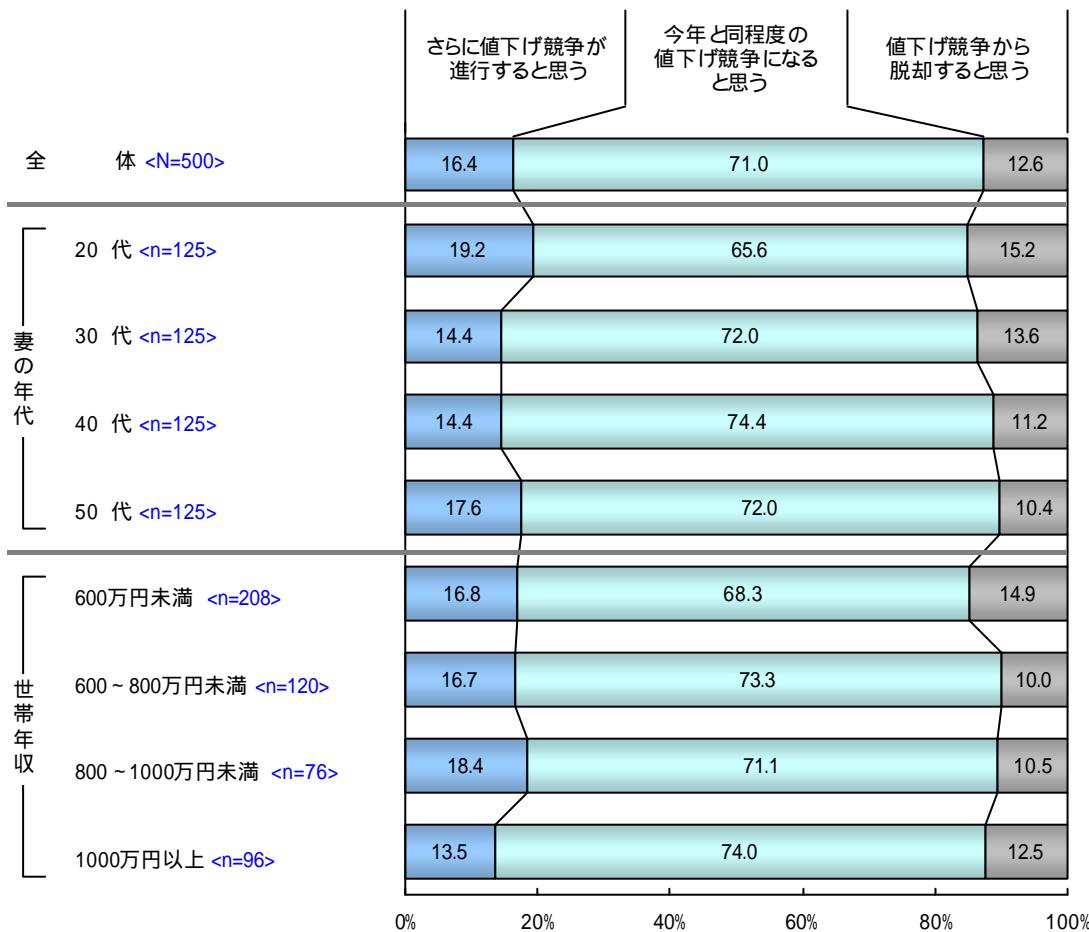
今年2010年)も家計に影響を及ぼす様々な出来事がありましたが、一年を振り返って自宅の家計に最も大きな影響を及ぼした出来事を自由にあげてもらいました。最も多かったのは「野菜の高騰」(141件)次いで「猛暑による光熱費の増加」(79件)、「たばこの値上げ」(36件)、「進学などによる教育費の増加」(32件)などが多くあげられました。

一方で、「エコポイント」(24件)、「子ども手当の支給」(23件)、「電化製品の買い替え」(18件)、「車の買い換え・エコカー補助金」(7件)などプラス面の出来事もあげられています。

2. 来年のデフレ予測

「今年と同程度の値下げ競争になると思う」(71.0%)が約7割。

図 30. 来年のデフレ予測



今年(2010年)は様々な分野で値下げ競争(デフレ)が進みました。主婦のみなさまに来年(2011年)についての値下げ(デフレ)の予想をしてもらいました。

「今年と同程度の値下げ競争になると思う」(71.0%)という予想が最も多く約7割を占めました。来年は、さらに値下げ競争が進行すると思うが16.4%、「来年は値下げ競争から脱却すると思う」が12.6%でした。来年は今年と同程度もしくはそれ以上値下げ競争(デフレ)が進行するという見方が多くなっています。

- 妻の年代別には、大きな違いはありませんでした。来年は、さらに値下げ競争が進行すると思うは『0代』(19.2%)でやや多くなっていますが、「来年は値下げ競争から脱却すると思う」(15.2%)も『0代』が多くなっています。

表 14. 来年、家計に大きな影響がありそうなもの（自由回答）

順位		件数
1	ガソリン	128
2	水道など公共料金	74
3	たばこ	28
	食料品全般	28
5	野菜	27
6	税金（控除廃止、消費税アップなど）	26
7	子ども手当	24
8	国民年金保険料	22
9	火災保険料、自動車保険料など	14

順位		件数
10	教育費	13
	米	13
12	東京ディズニーリゾートパスポート	12
13	新聞代	10
	旅費・交通費	10
15	衣料品	7
16	家電	6
17	タイヤ	5
	酒類	5
19	医療費	3

来年（2011年）に、値下げあるいは値上げが予想されるもので、家計に大きな影響がありそうなものを自由にあげてもらった結果を見ると、「ガソリンの値上げ」が最も多く128件、次に「水道など公共料金の値上げ」（74件）があげられています。

以下、「たばこ」（28件）、「食料品全般」（28件）、「野菜」（27件）、「税金（控除廃止、消費税アップなど）」（26件）、「子ども手当」（24件）、「国民年金保険料」（22件）、「火災保険料、自動車保険料など」（14件）などとなっています。

「ガソリン」「たばこ」「食料品」「野菜」などの値上げに加え、「公共料金」「税金」「国民年金保険料」などが高くなることが心配されています。

